

モノグラフ

中学生の世界

vol. 30

## 高校進学

～「15の春」の実態を探る～

### 目次

特集●高校受験を支えるもの……………深谷昌志……2

調査レポート●高校進学～「15の春」の実態を探る～……………深谷昌志……9

テーマ設定……………9

本報告書の要約・まとめに代えて……………10

第I章 どんな高校へ進学するのか……………12

1. 何校を受験したのか……………12

2. 第一志望の高校なのか……………14

第II章 どんな受験勉強をしてきたのか……………18

1. いつから受験勉強を始めたのか……………18

2. 学習塾は役立ったか……………23

第III章 生徒たちの考えていること……………30

1. 受験にあたり、どんな悩みがあったか……………30

2. 良い高校とは何か……………37

3. 高校入試について思っていること……………45

資料 調査票見本および集計表……………52

※おことわり：本文中に使用した写真は本文・テーマとはいっさい関係ありません。

特集

# 高校受験を支えるもの

放送大学教授

深谷昌志



## 4割の子が拘束されている

高校入試はわかりにくい。中学生たちが、高校受験に熱心に打ち込んでいるのはたしかだが、受験が終わると、どの生徒もなんらかの高校へ進学していく。良い高校へ入学した

からといって、それが明るい未来を約束するわけでもないし、偏差値の低い高校へ入ったからといって、挫折するものではない。いわば勝者も敗者もないのが高校入試である。それにしても中学生はむろん、小学生までも熱心に、時として必要以上に勉強しているよ

うに思う。

栃木県から依頼を受け、小・中学生を対象とした調査を全県レベルで実施する機会があった。その中で子どもたちの通塾率を調べたが、学習塾へ通う子の割合は、小4で25%、小6が32%、中2が38%であった。

塾通いについては、文部省は昭和61年4月、昭和52年の一回目の調査から9年ぶりに、二回目の全国調査を実施し、その結果を発表した。周知の通り、52年の調査は乱塾時代などの言葉が生まれるほど、塾通いがさかんになった状況を背景として実施された。そして、小学5年が19%、6年が27%、中2が39%などの実態が明らかとなり、塾通いの是非をめぐっての論議がさかんになった。

しかし、有効な対策も見いだせぬままに時間がすぎ、その後、校内暴力や登校拒否、いじめなどの、より深刻な教育問題が発生して、塾通いへの関心は薄れていった。

とはいっても、塾通いをする子の割合は増加しつづけている。それと同時に、塾そのものも変貌をとげつつある。具体的には、退職した教師が自宅を開放して何人かの子に教えるといった感じの寺子屋風の塾は姿を消した。それに代わって、駅前の一等地にビルを構え、専任の教師をかかえ、独自に開発した教材を利用して、コンピュータを使って情報を整理する企業型の塾が増加している。

塾というよりジューク・スクールという感じで、そうしたジュークでは、かつての暗い雰囲気代わって、子どもたちに受験技術を教え込むセカンド・スクールのカラーが強まっている。

昭和61年の文部省調査によると、小5の通

塾率は21%で、昭和52年よりも2%の増加、小6は30%で3%増、中2は6%増で45%となる。

こうした変化は予想したほど大きなものでなかったが、データをこまかく分析してみると、塾通いが山村にまで浸透しているのと同様に通塾年齢が低下したのが目につく。

これらの調査にも関わってきて、塾通いについてある程度まで情報を持っているつもりだったが、前述した栃木調査の中で、子どもたちが塾通いによって放課後を拘束される割合を調べておどろいた。

小学6年生を例にとると、月曜日41%、火曜日42%と、拘束される子どもの割合が、つねに4割を超える。そして土曜日が56%、日曜日が31%となる。もちろんこの調査は全県を対象としたので、かなりきちんとしたサンプリングを実施している。したがって、なに郡のなんとか村のように、調査対象地ごとのデータが出されている。それだけに宇都宮とか小山などの都市部でなく、山村に通塾現象が及んでいるのがわかり、あらためて塾通いの根強さを実感した。

## 学歴の重みは減少している

放課後、4割の子どもが塾に拘束されるのであるから、自分が暇なときは相手が塾通い、それとは逆に、相手がフリーの日は今度は自分が通塾と、スケジュールがすれちがってしまう。そうになると、子どもたちが群れて遊ぶ機会を持てなくなる。

ごく図式化してしまえば、子どもたちの放課後は、学習塾かけいごとへ通う者と自分の家の中でテレビを見たりマンガを読んだり

している者とに分かれる。そして、通塾率の低い地域では後者の比率が多いが、通塾率が高まるにつれて前者の割合が増加するのであろう。

アンケート調査の分析と並行して、何校かを選んで、子どもたちひとりひとりとこまかな面接調査を行うことにした。宇都宮からマイクロバスで2時間、あるいは2時間半もかかる山村で、私立中学受験などとおおよそ縁遠い地域でも塾通いする子の姿がみられる。聞けば、もよりの町まで、母親が自家用車で送り迎えをするとか。

県立高校が充実し、ほとんど望み通りの進学ができる。もちろんA高校に固執すると全員入学がむずかしくなるが、B高校でもA高校とそれほど変わらないし、C高校を視野に入れると、まじめに勉強していけば間違いなく高校へ進学できる。

そうだとするなら、小学生のうちから数年後のA高校入学を目指して塾通いをするのは、ほとんど無意味な行為という気がしてくる。

特に、日本の学校は良くも悪くも、学校としての基準が確保されているので、どの高校へ入学してもそれほどの開きはない。さらにいうなら、高校卒業後の大学も、現代の日本では、どの大学に入ったからといって大きな不利益をこうむることは少ない。

教育雑誌などを読んでみると、学歴偏重の傾向を憂う論に接することがある。指定校制がある。あるいは、特定大学の卒業生が国家公務員の上級職試験に合格し、いわゆるエリートコースを歩んでいる。

そうした事実を手がかりとして、学歴偏重を説く。一面の真理をついてはいるが、国家

公務員試験はどの大学の卒業生にも開かれているし、指定校の枠もいわれるほどきびしくない。

こうした論議をするには、学歴を歴史的な、あるいは比較教育的な観点から考察することが不可欠だが、歴史をたどると、たしかに第二次大戦まで学歴偏重の傾向を感じる。初等教育と中等教育の間には生涯かけても越えられないほどの溝がよこたわっていたし、旧制中学卒業だけでは、ナンバー中学の場合であっても、活躍の場はその地域に限られ、ネイション・ワイドな飛躍は望みがたかかった。もちろん、そうした学歴による壁は、収入の差だけでなく社会的な地位の開きをもたらす。

旧制中学や旧制高校への入試は、受験する層が経済的に限られていたといっても、現在の入試と比較できないほどのむずかしさであった。したがって、経済的に恵まれていたからといって進学できるものでなかったが、少なくとも進学できれば、卒業後の学歴による収入の開きが大きいので、何年あるいは十数年後に、在籍に必要とされた学費をとり戻すことができた。

そうした意味では、学歴は投資として十分にペイしていた。しかし、昭和30年代の初めに、大学進学率が当該年齢の1割を超え、実質的に高学歴は効用が失われ始めた。

もちろん、学歴の効用が顕在化するのには、卒業後20～30年してからであるから、昭和30年代に学歴の効用が衰退するのを予測できなくとも仕方がない。しかし、現在の日本では、クールになってあたりを見回せば、高卒と大学卒との初任給格差は年を追って縮まっているのに気づく。それと同時に、職業構造が変

わり、イラストレーターや調理士、庭師、タレントなど、その仕事につくのに努力は求められるが、学歴に頼ることなく高い収入や社会的な成功を保証する職種が増加している。

したがって、残念ながら学歴の値打ちは低下し、投資の対象となりにくくなった。こうした事情は、諸外国との対比を行えばさらに明らかとなる。大学の大衆化の進んだアメリカでも、ハーバードやマサチューセッツ工科大学などの卒業生初任給が他大学卒より高いのはよく知られているが、ヨーロッパでは大学進学率そのものが低いので、学歴は十分な有効性を発揮しているし、発展途上国での高等教育修了はエリートとしての活躍を約束されたに等しいのも周知の通りである。

歴史的な、あるいは、比較教育的な視野の中で、日本の学歴を位置づけると、上述したように学歴偏重は過去はともあれ、実質的な意味を失いつつあるのがわかる。

もちろん、だからといって高校卒と大学卒との扱いがまったく同じであったら、大学卒が4年間の学業を重ねているのであるから、むしろ問題であろう。つまり、高卒と大学卒との間にある程度の差は残るのが当然だが、その差はこれから先、さらに縮小されていく可能性が強い。

### 大衆社会状況の中での通塾ブーム

こう考えていくと、子どもたちの塾通いが全国的な傾向なのはすでに述べた通りだが、彼らはどうして塾通いをするのかがわかりにくくなる。

日本では、子どもたちの塾通いに慣れてしまっているが、通塾現象は、かつて韓国でさ

かんだったが、1980年の大統領令で禁止され、現在では台湾や香港、シンガポールなどに認められるにすぎない。そして、欧米などでは、子どもが放課後、第二の学校へ通う姿は考えられない。子どもは元気に遊ぶものといった慣習が定着しているからである。

そうした意味では、子どもの塾通いはかなり異様なものといわざるをえないが、子どもたちは勉強ができるようになり、良い学校へ入りたいと思って、通塾しているのであろう。

先ほどの栃木調査の中で、子どもとは別に親たちにも、教育についての意識を尋ねるアンケートを配付した。その中から、本稿のテーマに則した結果を二つだけ紹介しておこう。

①「いわゆる一流大学卒業という肩書きの値打ちは、お子さんが大学を出るところどうなっていると思いますか。」

値打ちがでる	{	ぐんと	3%	} 22%
		かなり	9%	
		やや	10%	
今と変わらない				45%

値打ちが下がる	{	やや	24%	} 33%
		かなり	8%	
		まったく	1%	

②「学習塾へ通えば、お子さんの成績がぐんと良くなると思いますか。」

良くなる	{	ぐんと	1%	} 69%
		かなり	9%	
		やや	59%	

変わらないだろう	{	あまり	27%	} 30%
		ぜんぜん	3%	
むしろ悪くなるだろう				1%

塾通いをしたからといって、成績がとても良くなることは少なく、「やや」程度だろう。

それに塾通いの究極の目的ともいうべき学歴の値打ちは、今と変わらないか、少し下がりぎみだというのが、親たちの評価である。

塾へ通っても効果が少なく、しかも学歴の重みが低下するのだとしたら、どうして子どもたちを塾通いさせるのかがわからなくなる。

たしかに、現在の通塾現象は大衆社会状況にみられる流行と考えると理解しやすい。ひとりひとりの親は、通塾が良いとは思っていないし、塾へ行ったから成績がアップするとも考えられない。さらにいえば、子ども時代の学業成績がそんなに重みを持つこともないだろうと思っている。

しかし、隣りの子が塾へ行っているし、その先の子も通塾している。それなのに、うちの子がテレビばかり見ていたのでは取り残されてしまう。成績が良くならなくてもよいが、落伍はさせたくない。せめて人並みの成績はとって欲しい。そうした形で、またひとり塾通いを始める。

本来、小学生の塾通いは、私立中学などへの入学を目的として、大都市を中心に、成績上位層に認められる現象であった。考え方によれば、人に差をつけるための通塾である。

しかし、現在では遅れをとらないための通塾なので、成績がそれほど上がらなくとも、塾通いをやめないし、まだ通塾していない子が、通塾の効果に疑問を抱きつつも、またひとり塾の門をくぐる。みんなが通っているので、よほどの見識の持ち主でなければ「イチヌケタ」と言いがたい。その結果として、通塾の波はこれまで以上に地方へ及ぶと同時に、低年齢化していく。

## 努力至上主義の学力観

こう書いてくると、塾通いに、かつてのトイレットペーパー騒ぎや紅茶きのこブームにも似た付和雷同の傾向を感じる。もちろん、ひとりひとりの親が悩み、そして、考えているのを否定するつもりはないが、効果が乏しい、あるいは、むしろ弊害の多い子どもの塾通いがどうしてここまで広まったのか。その背景として、アメリカの社会学者・リースマンが『孤独な群衆』の中で指摘したような他人志向型社会の影を感じる。

もう一度、子どもたちを対象とした調査へ戻ろう。子どもたちに勉強の得意な子を連想させ、どうして勉強が得意なのかを、勉強の苦手な子との対比で示すと、図1の通りとなる。そして、そうした子の未来像を予測させると、図2のような結果が得られる。

この二つの図に目を通し、これらがどんな意味を持っているのかを考えて欲しい。子どもたちは、勉強の得意・苦手は生まれつきのものでなく、どれくらい予習や復習を頑張ったかによると思っている。それと同時に、勉強のできは、将来の生活に大きな影響を及ぼすとも信じている。

つまり、学業成績は学習努力を反映するから、勉強の得意な子は努力が報いられたと思えるので、自分に自信を持てる。そして、こうした努力を重ねていけば、未来は開けていくと思う。それに対し勉強が苦手だと、努力不足を感じ、頑張りの足りない自分というイメージを抱く。その結果、自分に自信を持っていないので、未来も閉ざされていると思う。

すでにふれてきた子どもたちの塾通いは、

こうした学業成績に対する努力信仰の象徴なのであろうが、現実の生活では、子ども時代の成績が一生を規定するはずもないし、残念ながら勉強の得意・苦手に努力を越えたものがあるのは否定しにくい。

走るのに遅い・速いがあり、歌のうまい・下手があるのと同様に、勉強についても得意・苦手が存在する。

もちろん苦手な子に対して、適切な指導を与えていけば、学力は伸びる。したがって、どの子にも教育の可能性があり、特に、学力の低い子ほど秀れた教師に指導されると伸びを示す。そうした意味で、教育の必要性を否定するつもりはないが、だからといって、どの子も頑張ればトップレベルの学力を持てるようになるというのは科学的でない。ひとりひとりの子は、その子なりに伸びるのであ

て、同じ結果におちつくのではない。

そう考えてくると、子どもたちはというより、子どもを支えているのは親であろうから、親たちも努力至上主義の幻想にとりつかれ、勉強が少し苦手だと不必要な劣等感におちいつているように思える。端的に言って、勉強は、その子なりのベストを尽くせばよいのであって、すべての子が100点をとる必要はあるまい。

特に、学校で求められる学力は、どの程度の知識や技術をより正確に憶えているかである場合が多く、そうした学力は、身近に本などの情報を求めがたいかつての社会で必要なものであっても、現在ではむしろ不要になりつつある。そうした記憶力に裏打ちされた学力は、学校社会の中でものをいうことが多い。しかし社会に出てから必要なのは、記憶力で

図1 勉強の得意な子ども・苦手な子ども

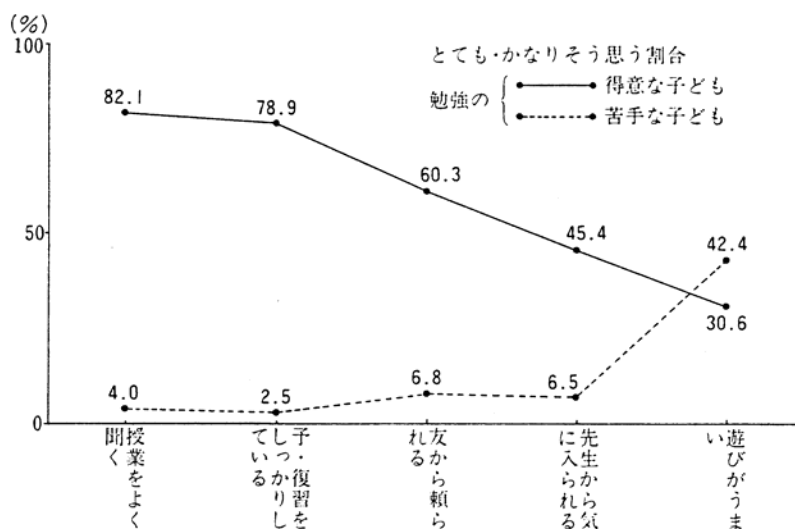
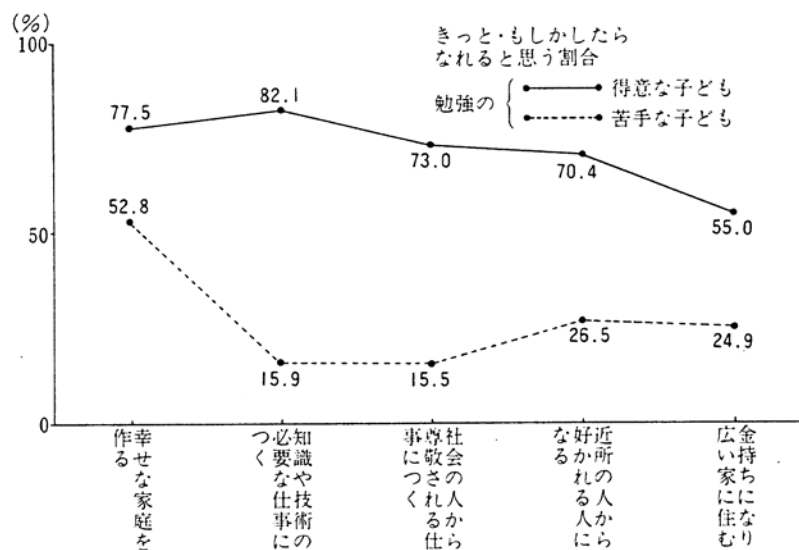


図2 勉強の得意な子ども・苦手な子どもの未来



はなく、やる気や問題を解決する力であろう。

それにもかかわらず、学力に自信を持ってない子どもは、記憶力がすべてかと思ひ、不必要なひげ目に悩みながら、やる気を失っていく。

高校中退者についての文部省の調査を手伝う機会があった。毎年11万人の生徒が中退する現状で、委員のひとりとして調査結果の分析に関心を寄せたが、その中で目についたのは、中退者たちの大半が、退学したとき「ホッとした」「サバサバした」と答えている事実であった。もう努力しなくてよい。学校をやめたのだから、のんびりやっていこうというのである。まだ16~17歳の生徒たちが、人生に努力する態度を棄て、家庭を中心としたささやかな幸せを築こうとしている。

マイホームへのあこがれを批判するつもり

はないが、彼らは、たまたま学業に向いていなかったのであって、その他の面では十分に自分らしさを発揮できよう。それにもかかわらず、中退者は学力が振るわなかったのを理由として努力を放棄している。そう考えてみると、子どもたちは学力を唯一の尺度とするものの見方の犠牲者で、もっと自分としての自信を持って生きていってもよいのと思う。そのためには、子どもたちひとりひとりを学力だけからではなく、複眼の見方で、その子の個性を見つめる態度が必要なのであろう。

本号では以下、高校入試についてのデータを紹介するが、生徒たちは何のために勉強しているのかわからず、なんとなく1点でも多く点数をとろうとしている。多少無意味な学力競争という気持ちがしないでもない。



# 高校進学

～「15の春」の実態を探る～

放送大学教授 深谷昌志

## テーマ設定

中学の問題を考え始めると、必ずといっていいほどに高校進学につきあたる。学業成績はむろんのことだが、部活動、そして非行、友だちづき合い、あるいは、親子関係など、どの側面をとっても高校進学の問題が影を落としている。

みんな仲良くいっしょに入学してきた生徒たちが、3年間の過程をたどるうちに学業成績によってふるいわけられ、さまざまなランクの高校へ進学していく。つまり、マスとして入学した生徒が細分化されて卒業していく。中学校は、そうした淘汰の機関としての役割を担っており、それが中学の機能を狭めているように思う。

教育関係の論文を読んでいると、ふるいわけを悪のように語るものが少なくない。しかし、どの社会のどの時代をとるにせよ、学校はどこかの段階で、子どもたちを適性や個性に応じて、分化する役割を担っている。そし

て、学校は本来、そうした機能を果たすために成立した制度といえなくはないが、そうはいっても、ふるいわけが生徒たちの心にさまざまな、そして大きな歪みをもたらすとしたら、歪みを少なくさせるための対策が望まれよう。

いずれにせよ、高校受験を当事者である生徒たちがどう思っているのかを知ることが必要となる。もちろん、受験直前の生徒たちにアンケートを配るのは非常識なので、高校受験の一段落した3月に、「高校受験をふり返って」という感じの調査を実施することにした。

公立高校の入試が早期に行われる首都圏の学校に調査をお願いし、公立の入試結果が発表され、私立の二次募集が終わった3月上旬～中旬を調査時期に定めた。そして、教室で生徒にアンケートに記入をしてもらった。調査サンプルの構成は、以下の通りである。

### 〔調査概要〕

対象●東京都・千葉県・神奈川県・埼玉県の  
公立中学校15校の中学3年生  
期間●昭和63年3月  
方法●学校通しによる質問紙調査

### サンプル構成

(人)

	男子	女子	計
都市部	542	540	1,082
郡部	541	597	1,138
計	1,083	1,137	2,220

## 本報告書の要約

### ① 高校進学

サンプルの97.7%は高校へ進学している。そして、3月上旬時点での進路未定者は0.8%にとどまっている。

### ② 受験した高校の数

偏差値の低い場合は単願の形をとり、1校しか受験していないが、偏差値が上がるにつれて受験する学校の数が増加する。(p.14表2)

### ③ 入学したい学校か

入りたい学校へ入れる生徒は51%で、不本意入学の生徒は25%を占める。(p.15図3)

### ④ 勉強時間

中3の2学期に、平日は2時間、日曜日に3時間くらい勉強をしている。(p.19表4) もちろん上位層の生徒たちの勉強時間は長い。(p.20表5)

### ⑤ 受験勉強を始めた時期

中3の2学期後半になってから受験勉強を始めたが、それでは遅すぎる。せめて中3になったら早めに取り組みばよかったと思う。(p.21表7)

### ⑥ 通塾率

中3の通塾率は61%で、中でも週に3回以上通塾した割合は31%に達する。(p.27表12) そして、成績上位層で週に3回以上通塾した者は46%を占める。(p.27図10)

### ⑦ 塾は役立ったか

さすがに「大変役立った」と答えた者は30%にとどまっているが、「少し」を含めると55%の生徒が学習塾は役立ったと答えている。しかし、残りの45%は役立たなかったといっているのであるから、通塾はそれほどの効果をあげなかったのであろう。(p.28図11)

### ⑧ 塾へ行かなくとも望みの学校へ入学できるか

「ぜったい」の28%に「だいたい」の43%を含めて、71%の者は塾へ行かなくとも望みの高校に入れると答えている。(p.28表13)

### ⑨ 合格できるかどうかの不安

合格できるかどうか不安だった者は「とても」の36%に「わりと」の29%を含めて65%に達する。(p.31図13) しかも、そうした気持ちに偏差値による開きは少ない。(p.33図14)

### ⑩ 良い高校とは何か

偏差値により異なるが、偏差値の高い生徒は進学校、中くらいの生徒はまじめな学校、そして、中以下は就職率の良い学校を、良い高校と考えている。(p.41表19)

### ⑪ 受験を終わった今の気持ち

友だちと旅行をしたり、のんびりしていた。(p.43図20)

### ⑫ 高校入試の意味

偏差値により入試の意味が異なるが (p.48表23)、全体としてみると、高校入試を媒介として勉強の仕方をおぼえたという反応が多い。(p.47図21)

## まとめに代えて

形式的にみると、どの生徒も、なんらかの形で高校へ進学している。そして、実際に高校受験のための勉強の取り組み方を調べてみても、生徒たちからそれほどハードに勉強している印象を受けない。

しかし、生徒たちの心のうちは、どの子をとっても受験に失敗するのではないかと揺れ動いている。たしかに多くの生徒にとって、高校受験は生まれて初めてストレスを感じる体験であって、それだけに動揺がみられる。そうした中で偏差値が高い生徒たちは、望みの高校へ入れそうだと自我像を明るいものにしていくのに対し、偏差値が低くなるにつれ

て、自我像が暗さを増す。高校受験を通して、自分の将来を見つめ、ある生徒はやる気を燃やし、他の者は挫折を予感する。

そうだとすると高校進学の過程で大事なことは、どの高校へ進学するかであるのはむろんのことだが、それ以上に、生徒たちの心のうちに目を向け、高校受験を通して挫折への道を歩まないように指導することであるように考えられる。つまり、学習努力を学習結果と切り離し、学習を重ねること自体を高く評価し、生徒たちに自信を抱かせることが望まれよう。



# 第 I 章 どんな高校へ進学するのか



## 1. 何校を受験したのか

まず、生徒たちはどういう高校へ入学したのであろうか。形式だけに注目すると、本サンプルの場合、高校進学者は97.7%に達し、就職する者は1.5%、未定の者は0.8%にすぎない。本調査のサンプル数は2,220人であるから、このうち2,169人は高校に進学し、進路の未定の者は18人とどまっている。

この18人も3月末までにはなんとか落ちつき先を見つけるのであろうが、いずれにせよ、生徒たちは進学できる高校が決まってほっとしているのであろうか。

それでは2,169人の生徒たちは、どんな高校へ進学したのか。全体的な傾向は表1にくわしい。この中で目につくのは、入学した高校

が第一志望かどうかの反応で、表中の数値のように第一志望に入った者は43%で、「1校しか受験しなかった」者が39%を占める。

この「1校しか受験しない」ことがどんな意味を持つかは、中学教育の関係者ならあらためて説明するまでもあるまい。図1に示したように、生徒の44%は単願だったと答えているので、単願率は2人に1人という感じになる。しかも偏差値別のクロス集計の結果をみると、偏差値が低くなるにつれて単願率がふえる。つまり偏差値が低い場合、入れそうな学校を決め、そこにしぼる形をとる。それだけに複数の学校を受験できるのは、偏差値の高い生徒たちという感じになる。

実際にも表2のように、受験した高校の数は偏差値が高くなるにつれてふえ、偏差値62以上の生徒の57%は3校以上を受験している。それに対し偏差値が44以下だと、1校しか受

けていない、つまり単願の者が60%を占める。

複数の高校を受験できるというのは偏差値の高い証拠なのであろうか。

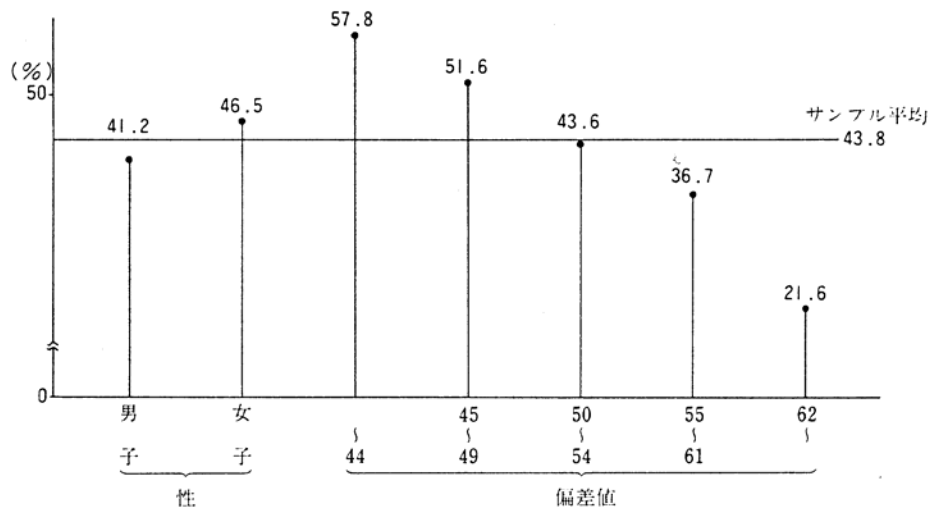
(表1) 進学状況

→ 第一志望が4割

		(%)	
① あなたが進学する高校は、単願でしたか、それとも併願でしたか。			
1. 単願だった	43.8	2. 併願だった	56.2
② 公立高校ですか、私立高校ですか。			
1. 公立高校	66.8	2. 私立高校	33.2
③ 男女共学ですか、別学ですか。			
1. 共学	68.1	2. 別学	31.9
④ 大学や短期大学の附属校ですか。			
1. 附属	16.5	2. 附属ではない	83.5
⑤ 進学する高校は、受験した高校のなかでは第1志望でしたか。			
1. 1校しか受験しなかったため、当然第1志望だった	38.9	2. 複数の高校を受験したなかの第1志望だった	42.9
3. 第1志望ではなかった	18.2		

(図1) 単願か

→ 下位層は単願



(表2) 受験校の数×偏差値

→上位層は複数受験

(%)

		1 校	2 校	3 校	4 校以上
偏 差 値	～ 44	60.3	25.5	8.9	5.3
	45 ～ 49	50.5	32.5	12.9	4.1
	50 ～ 54	39.6	41.4	15.1	3.9
	55 ～ 61	30.5	35.6	23.2	10.7
	62 ～	15.8	27.2	30.6	26.4
全 体		38.8	32.5	18.4	10.3

## 2. 第一志望の高校なのか

したがって、入学する学校が第一志望かどうかも偏差値により異なり、偏差値が55以上の生徒の半数以上は、第一志望の学校へ入学できたと答えている。(図2)。

そして、入学の決まった学校は入りたい学校かについては図3の通りで、大づかみにすると「やや」も含めて「入学したかった」と答えている者が51%と、ほぼ半数。それに対し、「入学したくない学校」という者は25%と4分の1を占める。

そして、入学したい学校と偏差値との関係を調べると、図4のようなプロフィールが得られる。つまり偏差値の低い生徒が「入学したい」学校へ入る割合は39%だが、上位層の場合66%が望みの学校へ進学している。

こう見てくると、どの生徒も形式的にみると高校へ進学してはいるが、下位層の生徒は

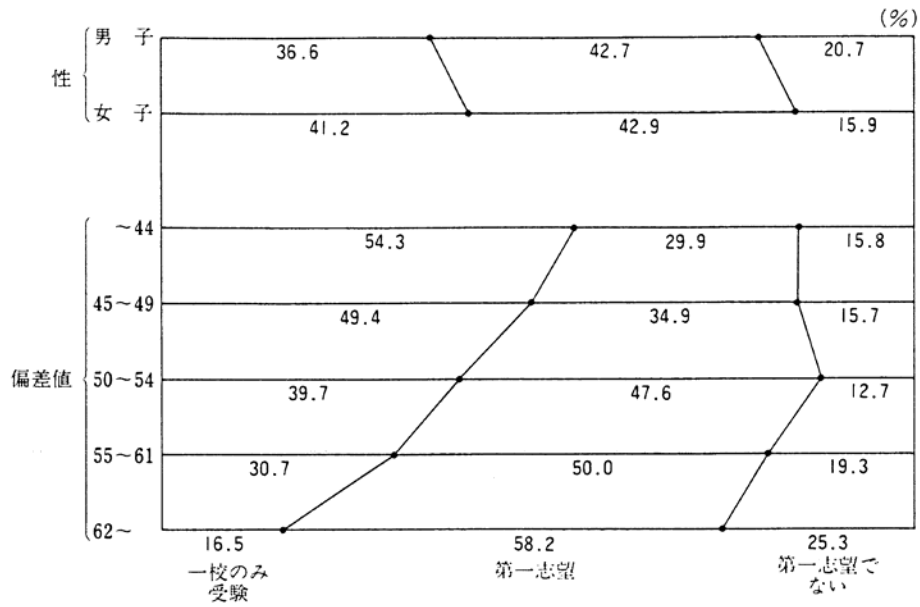
好むと好まざるとにかかわらず、受け入れてくれる学校へ進学しているのに対し、上位層になるにつれて生徒の方の希望が生かされるようになり、好みの学校への進学が可能になるように見える。

なお、将来の進路については図5にくわしいが、大学進学を希望する者は4年制が45%、短大が15%に達する。そして、これまでの考察から明らかなように、偏差値の高い生徒は「むずかしい大学への進学」を考え、偏差値の50から60にかけての生徒は、ふつうの大学を目標とし、そして、それ以下の生徒は専門学校への入学を期待している(表3)。

したがって、高校受験を媒介にして生徒たちは、その生徒なりの将来の進路を考えていく。高校進学はそうした機能を果たしているのだろうか。

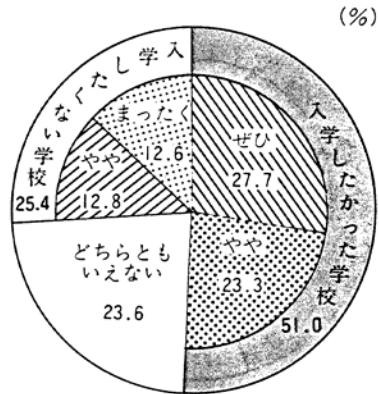
(図2) 第一志望か

→ 上位層は第一志望

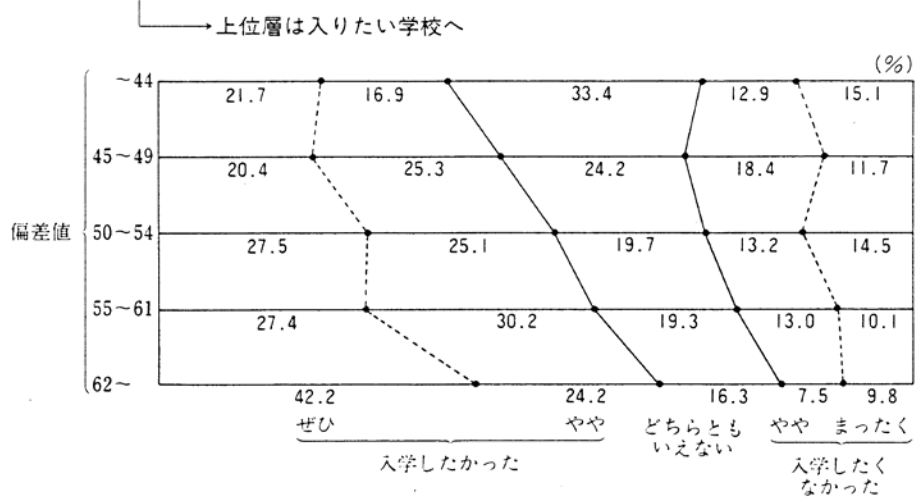


(図3) 希望した学校が

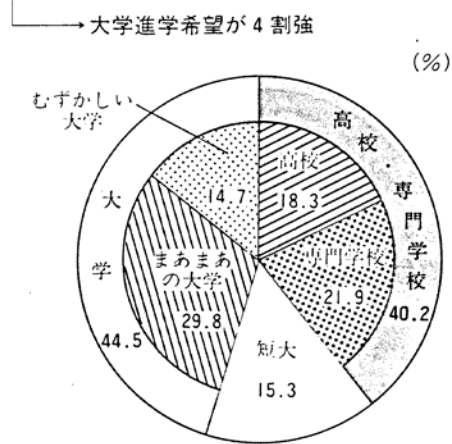
→ 入学したかった学校が51%



(図4) 希望した学校か×偏差値



(図5) 進路希望





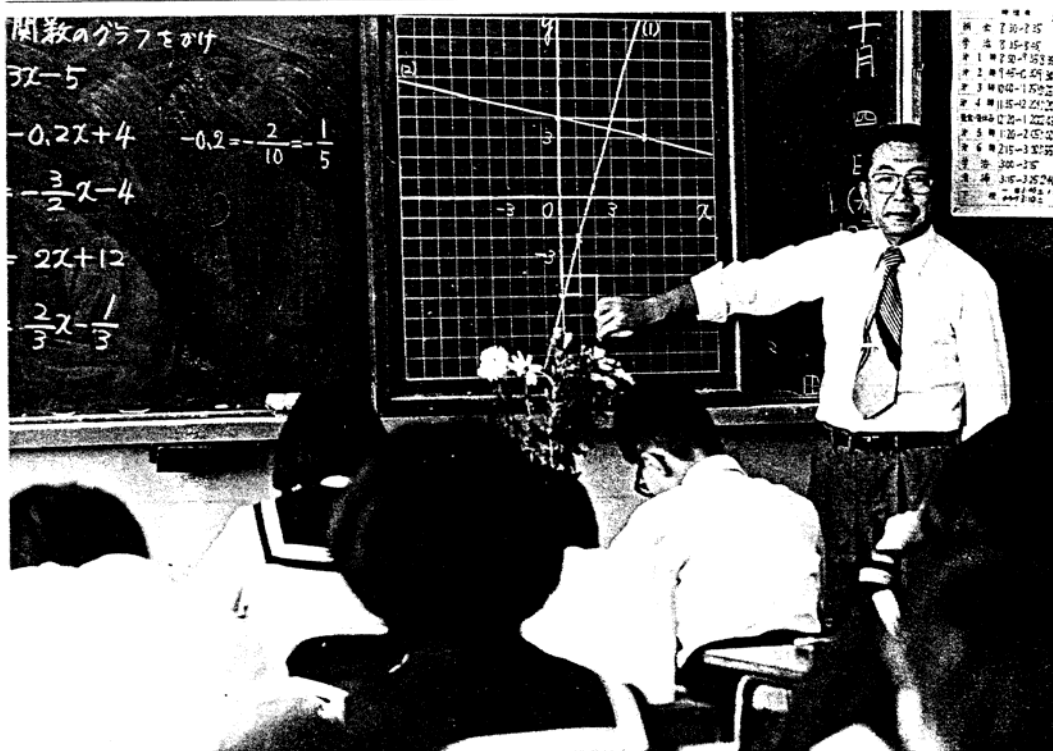
(表3) 進路

→ 上位層はむずかしい大学

(%)

	性		勉 強				偏 差 値				
	男子	女子	とても ま あ で き る	や や で き る	や や で き な い	か な り ・ ま た た く で き な い	～44	45～49	50～54	55～61	62～
1. 中学または高校までで就職したい	18.5	18.1	6.7	8.0	15.9	24.9	36.0	29.2	16.3	7.3	38.8
2. 専門学校へ行くつもり	19.7	23.9	6.7	9.9	21.4	29.6	37.4	31.3	21.1	12.7	4.6
3. 短期大学へ行くつもり	4.4	25.9	12.4	10.5	17.2	17.4	13.3	16.8	18.7	14.6	6.3
4. まあまあの4年制大学へ行くつもり	38.4	21.4	30.5	42.1	37.0	21.2	10.4	18.0	35.7	51.3	39.3
5. むずかしい4年制大学へ行くつもり	19.0	10.7	43.7	29.5	8.5	6.9	2.9	4.7	8.2	14.1	11.0

## 第II章 どんな受験勉強をしてきたのか



### 1. いつから受験勉強を始めたのか

高校受験というからには、受験勉強をしなければならない。中3の2学期、生徒たちがどれくらい勉強したかについては表4の通りで、平日が2時間、休日が3時間というのが平均的な数値となる。

もちろんこの結果は、あくまで生徒たちがそう思っているだけであって、実際にそれだけの長さを勉強したのかはたしかでない。しかし、少なくとも生徒たちは2時間くらいは勉強したと思っている。

そして、勉強時間の長さを偏差値別に集計してみると、さすがに上位層は3時間以上机に向かってのに対し、下位層の勉強時間は相対的に短い(表5)。

もっとも上位層の生徒たちは、勉強に自信を持てるから、そして勉強がわかるから、勉強も楽しかろう。しかし下位層の生徒は勉強が苦手なので、30分でも机に向かうのは苦痛になるのかもしれない。

なお、睡眠時間については表6の通りで、大多数の生徒が7時間近くはねむっており、大学受験の場合のように、ねむりをつめても受験勉強をするまでにはいたっていないような印象を受ける。

生徒指導のベテラン教師たちの話を聞くと、高校受験はムードみたいなもので、生徒たちは受験、受験と言ってさわいでいるだけで、実際には勉強をしない。中学生ではやむをえ

ないかもしれないが、不安になってさわいでいる時間があつたら、その分でも机に向かったらよいのと思う。

たしかにそういう気持ちがしないでもないが、生徒たちによれば受験勉強に本腰を入れ始めたのは、中3の2学期も後半になってからだという。しかし終わってから思うと、それでは遅すぎるので、せめて3年生になったら早いうちに勉強すればよかったという気持ちがするらしい(表7)。

そして、受験勉強への取り組みの時期と偏差値との関係を調べてみると、図6(表8)のように偏差値に関係なく、受験勉強は取り組む時間が思っていたより遅いのがわかる。

中学生なので、その日その日の勉強が大事で、とりあえず受験という感じが強まってくるのは生徒たちも言っているように中3の2学期、それも後半になってからなのであろう。

したがって高校受験が受験らしくなるのは、中3の2学期の後半、つまり、10月くらいか

らで、3学期までの3～4か月が、受験勉強の期間になる。

もちろん内申書の問題もあるので、中2の頃も受験を意識していよう。しかしそれは漠然と意識しているだけであつて、本格的に取り組んだ気持ちになるのは生徒たちのいう通りに、中3の2学期後半になってからなのであろう。

したがって、「あなたの勉強の仕方はどんなタイプ」なのかについては、「気が向くとやり、向かないとやらない」むらのあるタイプとと思っている者が50%と、全員のほぼ半数に達する。それと同時に「勉強中に他のことが頭に浮かんでくるタイプ」が36%に達する。そして、「コツコツ積み重ねる」タイプだと思える生徒は7%にすぎない(表9)。

高校受験ということでストレスを感じ、いろいろとやってみたつもりだが、受験が終わった今になって考えると、やはり努力が足りなかったという感じになるのであろうか。

(表4) 勉強時間

→ 平日は2時間

(%)

	0～30分	1時間	2時間	3時間	4時間	5時間	6時間以上	平均
平日	6.5	22.7	34.7	21.7	8.7	3.4	2.3	2時間12分
土曜	7.9	15.0	27.9	24.2	11.7	7.0	6.3	2時間58分
日曜	9.3	12.7	19.4	22.3	13.4	8.3	14.6	3時間10分

(表5) 勉強時間×偏差値

→ 上位層は長時間

(%)

		平 日		土 曜		日 曜	
		3時間以上	(4時間以上)	3時間以上	(4時間以上)	3時間以上	(4時間以上)
偏 差 値	～ 44	19.2	( 7.4)	31.8	(10.9)	38.5	(21.2)
	45 ～ 49	18.4	( 7.1)	34.8	(11.4)	52.4	(23.6)
	50 ～ 54	21.1	( 9.3)	39.9	(18.6)	53.2	(29.4)
	55 ～ 61	33.8	(12.2)	58.5	(36.7)	58.3	(41.7)
	62 ～	45.4	(19.2)	57.9	(37.3)	69.1	(48.8)

(表6) 睡眠時間×偏差値

→ 睡眠時間に変わりはない

(%)

		4時間以内	5時間以内	6時間以内	7時間以上
偏 差 値	～ 44	3.6	12.7	32.1	67.9
	45 ～ 49	0.9	9.2	32.6	67.4
	50 ～ 54	1.5	9.5	31.7	68.3
	55 ～ 61	4.1	13.3	40.4	59.6
	62 ～	4.6	12.6	39.6	60.4
全 体		3.0	11.5	35.6	64.4

(表7) 受験勉強

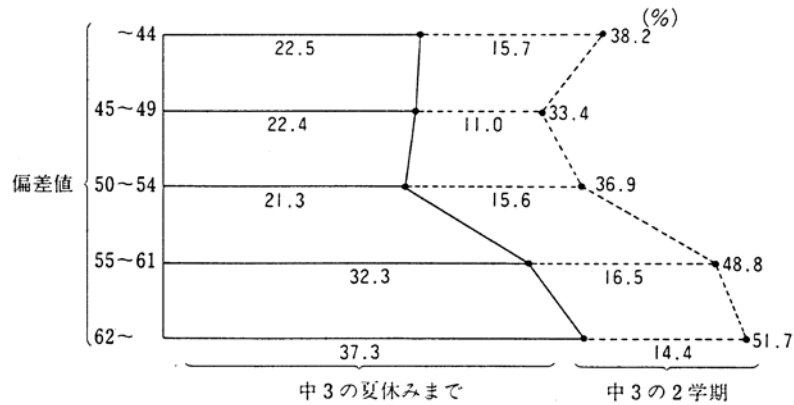
→中3の2学期後半から

力を入れ始めた時期	中学に入ってからすぐ	2年生の頃から	3年生になってすぐ	3年の夏休みに入って	3年の2学期になって	3年の2学期後半になって	3年の3学期になって	入試直前になって	とくに意識しなかった
		1.0	2.5 (3.5)	6.0 (9.5)	18.0 (27.5)	14.2 (41.7)	21.3 (63.0)	15.8 (78.8)	9.1 (87.9)
いつからすればよかったか	中学に入ってからすぐ	2年生の頃から	3年生になってすぐ	3年の夏休みに入って	3年の2学期になって	3年の2学期後半になって	3年の3学期になって	入試直前でよい	受験を意識しての勉強は不必要
	18.4	17.9 (36.3)	22.1 (58.4)	23.0 (81.4)	4.5 (85.9)	3.6 (89.5)	2.9 (92.4)	2.2 (94.6)	5.4 (100.0)

( )内は累積した%

(図6) 受験勉強の開始時期×偏差値

→中3の2学期でも取り組んでいない



(表8) 受験勉強の開始時期×偏差値

→上位層は早めにスタート

(%)

		中3に なって	中3の 夏休み	2学期	2学期 後半	3学期	入試直前	とくに 意識なし
偏 差 値	～ 44	8.2	14.3 (22.5)	15.7 (38.2)	19.4 (57.6)	20.4 (78.0)	9.6 (87.6)	12.4 (100.0)
	45 ～ 49	6.3	16.1 (22.4)	11.0 (33.4)	21.3 (54.7)	21.7 (76.4)	11.2 (87.6)	12.4 (100.0)
	50 ～ 54	7.8	13.5 (21.3)	15.6 (36.9)	27.3 (64.2)	15.3 (79.5)	10.9 (90.4)	9.6 (100.0)
	55 ～ 61	10.1	22.2 (32.3)	16.5 (48.8)	19.2 (68.0)	13.3 (81.3)	7.0 (88.3)	11.7 (100.0)
	62 ～	16.0	21.3 (37.3)	14.4 (51.7)	18.2 (69.9)	10.0 (79.9)	7.2 (87.1)	12.9 (100.0)

( ) 内は累積した%

(表9) 勉強の仕方

→むらのあるタイプだと思う

(%)

	全 体	性		偏 差 値				
		男 子	女 子	～44	45～49	50～54	55～61	62～
① コツコツ積み重ねていくタイプ	6.5	6.3	6.5	3.5	4.4	4.7	9.6	11.7
② 始めれば休むことなく続けるタイプ	7.2	7.4	7.2	4.6	4.7	7.0	10.2	12.7
③ 勉強中にもととき他のことが頭に浮かんでくるタイプ	36.3	36.6	36.2	37.8	36.7	41.8	32.1	30.5
④ 気が向くとやり、向かないとやらないタイプ	50.0	49.7	50.1	54.1	54.2	46.5	48.1	45.1

Q. 中学校生活3年間をふりかえてみると、あなたの勉強のしかたは、つぎのどのタイプだと思いますか。  
あなたの勉強型にいちばん近いものを1つ選んで、○をつけてください。

## 2. 学習塾は役立ったか

中学3年の夏休みに入ると、体育系の大会がある。そこで3年間の部活動の成果を問い、その試合が終わると、引退して、高校受験に本腰を入れ始める。

表10のように、大半の生徒たちは3年生の7～8月頃まで運動部に入っていたと答えている。

もちろん部活動となれば、運動部の場合、

ほとんど毎日のように練習があり、部活動が生徒たちの勉強の妨げになるのではと思う。

図7のように、生徒たちは部活動をしたからといって、それが精神面を強くしたり、集中して勉強する態度を育てるとは思わない。といっても、とくに弊害があることもない。

つまり、部活動をしたからといって受験勉強にプラスすることもないが、かといってマ

(表10) 部活動をやめた月×偏差値

→ 上位層も部活動には参加

		(%)				
		中2の 終わりまで	中3の 4～6月	中3の7月	中3の8月	中3の 9月以降
偏差値	～ 44	19.4	5.1 (24.5)	28.0 (52.5)	31.6 (84.1)	15.9 (100.0)
	45～ 49	25.9	3.7 (29.6)	32.6 (62.2)	22.2 (84.4)	15.6 (100.0)
	50～ 54	17.7	4.9 (22.6)	31.1 (53.7)	28.4 (82.1)	17.9 (100.0)
	55～ 61	19.4	2.4 (21.8)	35.4 (57.2)	26.5 (83.7)	16.3 (100.0)
	62～	17.2	4.3 (21.5)	32.9 (54.4)	27.2 (81.6)	18.4 (100.0)

( )内は累積した%

イナスもないという評価である。そうした中で表11のように、成績上位層の生徒が、部活動での態度が受験勉強に役立つと答えているのが注目をひく。

成績上位層の生徒は、部活動にも意欲的に打ち込むだけでなく、そうした態度で受験勉強にも取り組んでいるのであろう。

図8に、高校進学にあたって何を参考にしたのかの結果を示した。担任の話や友だち、そして、中学の資料や高校の作成したパンフレットなど、生徒たちがさまざまな資料を利用して受験に臨んでいるのがわかる。

そして、相談相手についても学校を選ぶときは、先生や親に相談し、そして勉強の仕方については友だちに頼るというように、テーマによって相談相手を変えながら、高校受験に臨んでいるように思える(図9)。

高校受験といえば、塾通いを思いおこす。文部省の実施した塾通いについての調査結果でも、中学生の通塾率は中1=42%、中2=

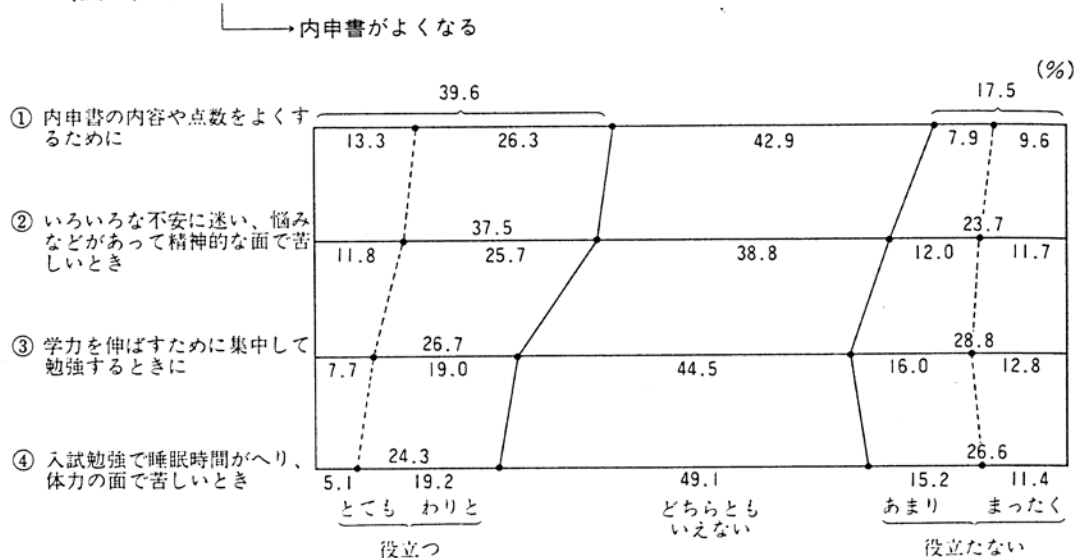
45%、中3=47%である。そして、中3の通塾率を地域別に集計した結果を見ると、人口10万人以上の大都市の通塾率は53%に達する。

したがって通塾する中学生は全国的に一般化している感じだが、本サンプルの場合、さすがに東京近郊だけあって、通塾率は61%に達している。そして、週に3日以上通塾していた生徒は31%を占める(表12)。

こうした通塾状況を偏差値別に調べた結果が、図10で、成績上位層ほど通塾率が高いだけでなく、塾へ通う日数も多くなる傾向が得られている。

上位層の生徒たちは、もともと勉強が得意だから、塾へ通ってもそれほど苦痛でないのかもしれない。実際にも「塾は役立ったか」について、さすがに「大変役立った」と答えた者は30%にとどまっているが、「少し」の25%を含めると、塾通いが効果があったと思っている者は55%を占める。換言するなら、役立たなかったと考えた者が45%を占めるので

(図7) 部活動の効用





あるから、通塾はそれほどの効果を上げなかったと見るのが妥当であろう。

もっとも図11のように、偏差値が62以上の生徒の51%が、学習塾は「大変役立った」と答えている。したがって上位層にとっては、塾は効果があった。しかし下位層には、あまり有効でなかったというのであろう。

上位層は塾へ行かなくとも、学力が伸びるタイプであろう。そうだとすると、塾へ行っても行かなくとも、学力のつく者は学力が伸び、頑張りの足りない者は学力がつきにくい。残念ながら塾へ行ったから、劇的な効果が上がることはない。換言するなら、学力を伸ばすのに特効薬はないというのが平凡な結論のように思える。

そして、生徒たちも表13のように、塾へ行かなくとも望みの学校へ入学できそうかについて、「だいたい」入れるだろうが43%、これに「ぜったい」入れるの28%を含めると、71%に達する。したがって圧倒的に多くの生

徒たちは、塾へ行かなくとも望みの高校へ入れると思っているのがわかる。

図12から明らかなように、それでも上位層の生徒たちは、通塾した方が進学に有利と考えている傾向が得られている。しかし中位以下の生徒は、通塾しても大して効果がないと思っている。したがって、学習塾は上位層にとって役立っても、中位以下の生徒にとっては、有効でなかったのかもしれない。

なお、高校入試についてのレポートなので、これまで偏差値を利用しながら分析を進めてきたが、これは「あなたの9～12月の偏差値の平均はどれくらいでしたか」の問いに、生徒たちの答えた数値をもとにしたもので、くわしい数値は表14の通りである。当然のことながら、偏差値の上位層はむずかしい大学への進学を考え、以下、下位になるにつれて、短大、そして専門学校と、進路が異なってくる。

(表11) 部活動の効用×偏差値

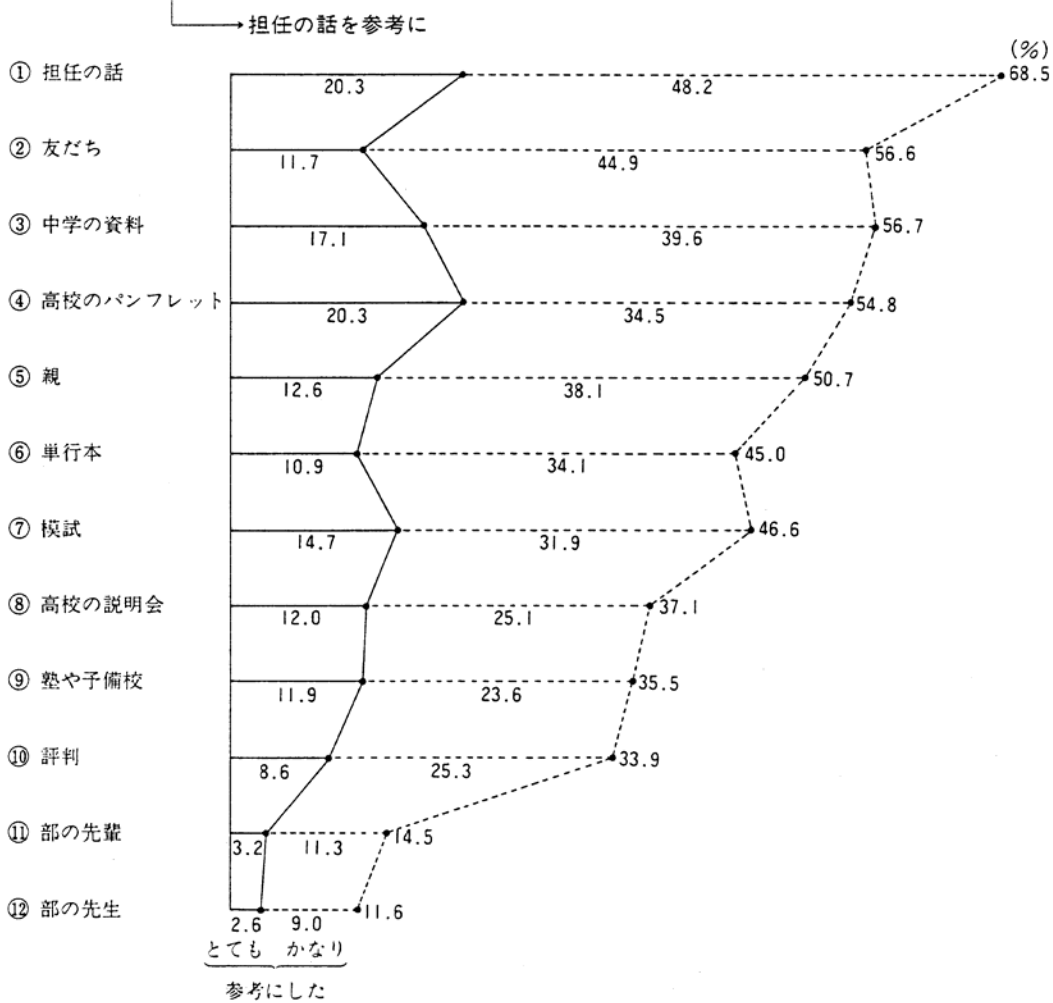
→上位層は効用を認めている

(%)

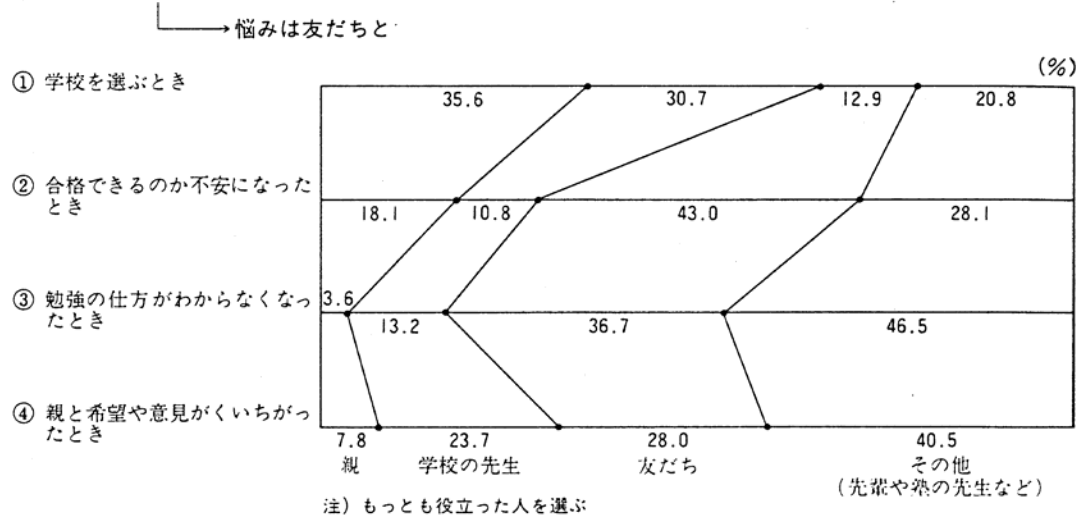
	偏差値									
	～ 44		45 ～ 49		50 ～ 54		55 ～ 61		62 ～	
① 内申書の内容や点数をよくするために	11.2	26.6	13.0	29.5	14.9	29.0	16.0	29.3	12.7	24.3
	37.8		42.5		43.9		45.3		37.0	
② いろいろな不安に迷い、悩みなどがあって精神的な面で苦しいとき	5.9	26.0	8.7	25.8	13.9	26.2	15.4	27.9	17.2	28.8
	31.9		34.5		40.1		43.3		46.0	
③ 学力を伸ばすために集中して勉強するときに	3.2	17.1	4.0	16.8	9.2	17.9	11.6	22.6	12.1	22.2
	20.3		20.8		27.1		34.2		34.3	
④ 入試勉強で睡眠時間がへり、体力の面で苦しいとき	2.9	16.2	3.4	16.7	4.3	20.8	7.4	23.4	6.9	24.8
	19.1		20.1		25.1		30.8		31.7	

とても わりと  
役立つ 役立つ  
合計

(図8) 進路選択の参考にしたもの



(図9) 相談相手



(表12) 勉強に利用したもの

→ 塾へ行ったくらい

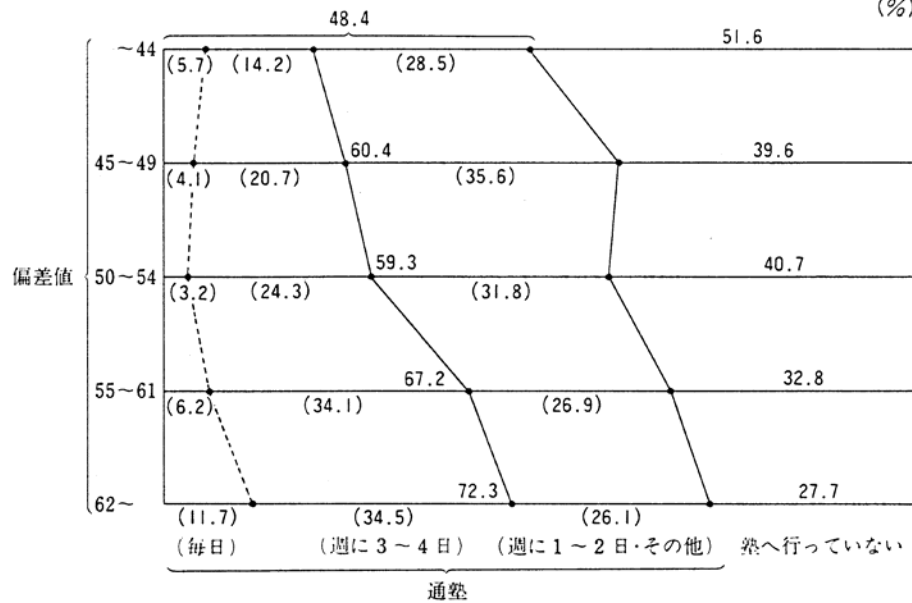
(%)

① 塾	ほぼ毎日	週に3~4日	週に1~2日	冬期講習	夏期講習	利用しなかった
	5.9	24.8	22.4	3.1	4.3	39.5
② 補習(校内の)	ほぼ毎日	週に3~4日	週に1~2日	冬休み	夏休み	参加しなかった
	6.9	2.5	6.5	2.0	16.7	65.4
③ 通信添削	ほぼ毎日	週に3~4日	週に1~2日	利用しなかった		
	5.0	3.3	9.1	82.6		
④ 模擬試験	0回	1~2回	3~4回	5~6回	7回以上	
	20.0	28.5	20.1	11.5	19.9	

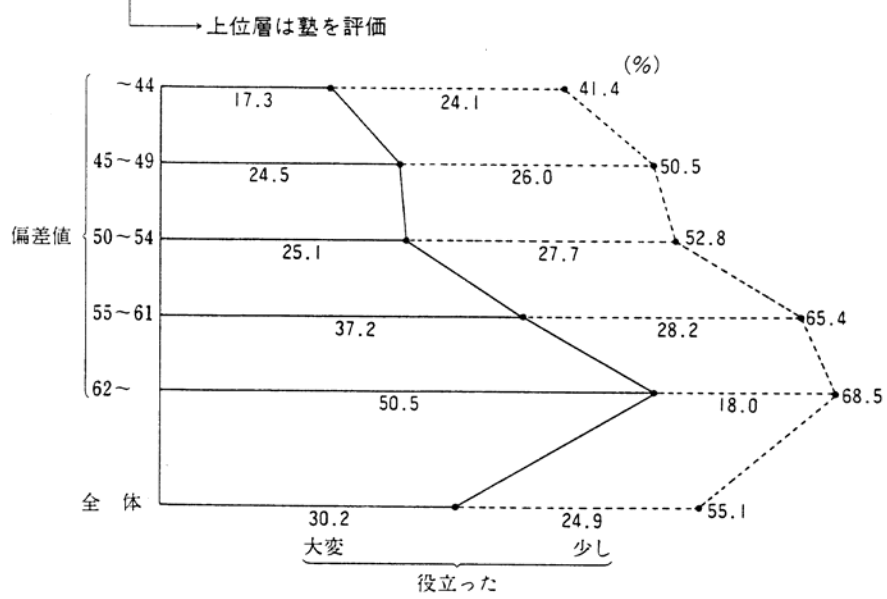
(図10) 塾通い×偏差値

→ 上位層は塾づめの生活

(%)



(図11) 塾は役立ったか×偏差値



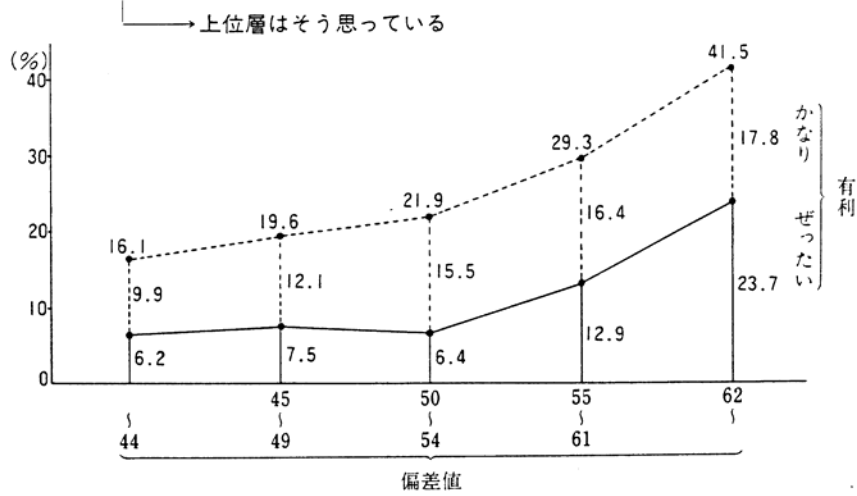
(表13) 塾へ行かなくとも入学できるか

→ だいたい入れると思う

(%)

	偏差値	入れる		わからない	入れない	
		ぜったい	だいたい		たぶん	ぜったい
	~ 44	18.6	46.5	25.4	5.6	3.9
	45 ~ 49	28.4	46.9	17.5	4.9	2.3
	50 ~ 54	31.7	47.7	16.5	2.3	1.8
	55 ~ 61	32.5	41.4	17.5	6.2	2.4
	62 ~	32.3	31.6	21.5	7.9	6.7
全	体	28.0	43.0	20.3	5.5	3.2

(図12) 通塾した方が進学に有利か



(表14) 偏差値×属性

→62以上と思っている子が2割

(%)

		偏差値				
		～ 44	45 ～ 49	50 ～ 54	55 ～ 61	62 ～
性	男子	20.1	18.3	19.8	18.7	23.1
	女子	18.1	18.8	22.1	21.1	19.9
進路	高校	39.1	30.9	19.4	5.9	4.7
	専門学校	34.3	28.0	21.1	11.9	4.7
	短大	18.3	22.7	28.3	20.7	10.0
	まあまあの大学	6.3	10.7	23.9	31.9	27.2
	むずかしい大学	3.1	5.4	10.5	19.4	61.6
勉強	とてもまあできる	16.3	12.8	12.8	14.0	44.1
	ややできる	3.9	3.9	8.8	16.7	66.7
	ややできない	4.2	5.6	15.1	30.9	44.2
	かなりできない	13.9	18.5	26.9	26.5	14.2
	まったくできない	32.6	27.0	21.6	10.9	7.9
全体		19.3	18.5	20.8	19.8	21.6

## 第Ⅲ章 生徒たちの考えていること



### 1. 受験にあたり、どんな悩みがあったか

これまでふれてきたように、生徒たちは望みの高校であるかどうかはともあれ形式的にみると、高校進学を果たしている。

しかし進学先が決まるまでに、それなりの不安や悩みがあったのではないか。そこで生徒たちがどんな不安を持ったのかを、図13のような設問で尋ねてみた。

図中のプロフィールが示すように、「合格できるかどうかという不安」を抱えている者は、「わりと」の29%に「とても」の36%を加えると65%に達する。

そこで、この「合格できるかどうかの不安」についての属性別の分析を試みると、表15のような結果が得られる。これを図化したのが、

図14で、偏差値の上位層も下位層も、ほとんど同じような不安を持っているのがわかる。

考えてみれば当然のことで、下位層は入る学校があればと思い、中位層はどこに入れるかと考え、そして上位層はあの学校に入学できるかと思い悩む。したがって、偏差値に関係なく不安がつきまとうのが、高校入試に限らず、受験というものの性質なのであろう。

そして、図15にあらためて入試前の気持ちをまとめてみたが、ここでも「志望校に合格できるか」不安な者が6割を占める。そしてイライラする子も半数を超えるが、そうした気持ちに偏差値による開きが少ないのは表16に示す通りである。

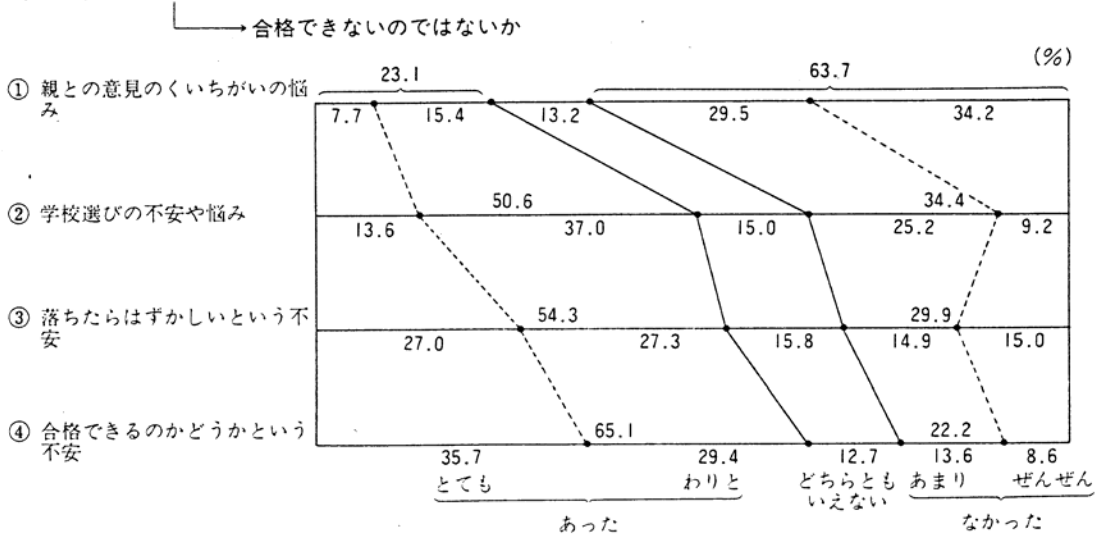
したがって少なくとも心理面に着目すると、上位層も下位層も、志望する学校へ入れないのではないかという不安を抱いて、受験に臨んでいるのがわかる。

もっともこれはあくまで受験生心理であって、実際に偏差値の高低は、生徒たちの自己像に関係を持っている。表17もその一例だが、偏差値が高くなるにつれて生徒たちの自己像は明るさを増す。しかしこの表ではわかりにく

いと思われるので、これを図化すると図16のようなプロフィールが得られる。

偏差値の高い生徒は、自分を心がやさしく、勉強ができ、先生に信頼されていると思っている。もちろん、これは受験勉強の成果というより成績の良さをもたらす自信なのであって、高校受験は生徒たちのそうした自信を裏打ちする作用を果たしたのであろう。

(図13) 進学不安



Q. あなたは次のような不安や悩みが、どれくらいありましたか。

(表15) 合格できるか不安×属性

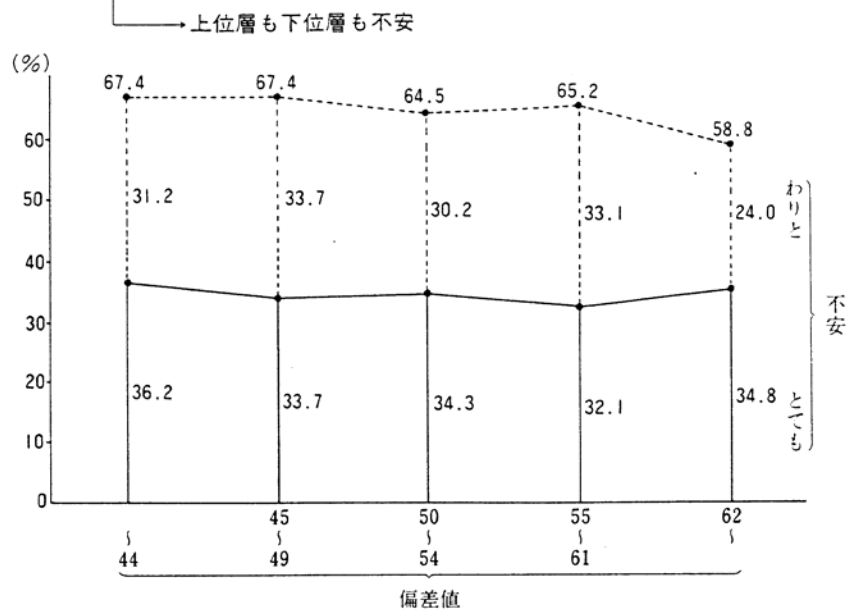
↳ どの子も不安

(%)

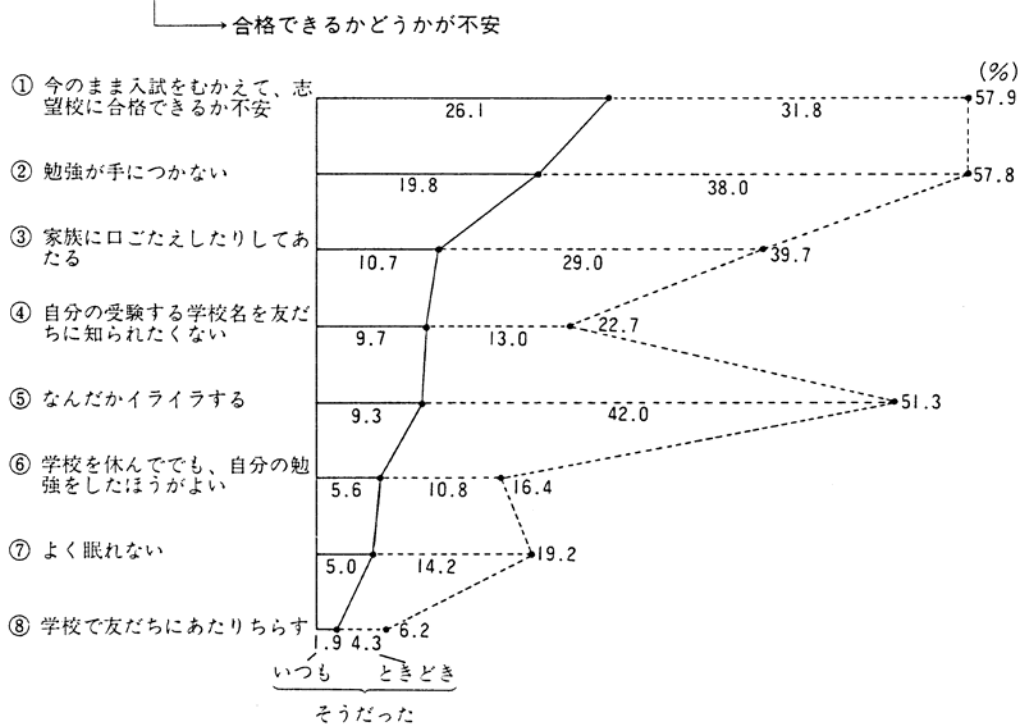
		あ っ た		どちらとも いえない	な か っ た	
		ととも	わりと		あまり	ぜんぜん
性	男 子	27.7	29.1	13.7	15.7	13.8
	女 子	43.0	29.9	11.6	11.7	3.8
進 路	高 校	33.5	29.8	14.7	13.4	8.6
	専 門 学 校	35.9	31.3	11.9	12.9	8.0
	短 大	42.7	30.7	13.3	8.7	4.6
	まあまあの大学	31.9	30.8	11.9	16.7	8.7
	むずかしい大学	38.2	25.6	9.6	12.5	14.1
偏 差 値	～ 44	36.2	31.2	15.3	10.3	7.0
	45 ～ 49	33.7	33.7	12.4	13.0	7.2
	50 ～ 54	34.3	30.2	10.7	14.1	10.7
	55 ～ 61	32.1	33.1	10.8	17.5	6.5
	62 ～	34.8	24.0	14.1	14.8	12.3
全 体		35.7	29.4	12.7	13.6	8.6



(図14) 合格できるか不安×偏差値



(図15) 入試前の不安



(表16) イライラする×偏差値

→半数の子がイライラ

(%)

		そうだった		どちらとも いえない	そうでなかった	
		いつも	ときどき		あまり	ぜんぜん
偏 差 値	～ 44	9.4	38.0	15.6	22.8	14.2
		47.4			37.0	
	45 ～ 49	7.5	46.1	12.1	21.3	13.0
		53.6			34.3	
	50 ～ 54	10.2	41.7	13.6	21.2	13.3
	51.9		34.5			
55 ～ 61	8.3	44.9	12.9	19.4	14.5	
	53.2			33.9		
62 ～	10.4	40.7	11.1	18.3	19.5	
	51.1			37.8		
全 体	9.3	42.0	13.3	20.5	14.9	
	51.3			35.4		

(表17) 自己評価×偏差値

→ 上位層の自己像は明るい。

(%)

	偏 差 値									
	～ 44		45 ～ 49		50 ～ 54		55 ～ 61		62 ～	
① 遅刻をしない	27.9	17.7	28.3	17.8	28.5	22.5	34.3	16.9	39.5	14.1
	45.6		46.1		51.0		51.2		53.6	
② 友だちが多い	14.9	20.2	12.2	20.3	11.9	24.1	11.7	26.0	18.9	24.9
	35.1		32.5		36.0		37.7		43.8	
③ 忘れ物をしない	10.8	16.8	7.6	22.5	10.9	24.6	11.2	23.0	19.4	21.0
	27.6		30.1		35.5		34.2		40.4	
④ 係の仕事をきちんとする	12.0	13.4	12.6	15.2	12.7	19.7	13.7	16.9	19.4	19.4
	25.4		27.8		32.4		30.6		38.8	
⑤ 心がやさしい	18.4	11.9	12.3	13.5	10.9	12.2	13.7	13.4	17.9	14.9
	30.3		25.8		23.1		27.1		32.8	
⑥ 体力がある	15.2	11.8	10.2	14.0	9.6	13.5	13.6	11.2	15.1	14.4
	27.0		24.2		23.1		24.8		29.5	
⑦ 運動神経がいい	11.0	7.1	7.0	12.9	7.5	14.5	7.9	11.2	12.4	10.9
	18.1		19.9		22.0		19.1		23.3	
⑧ 友だちをひっぱる力がある	5.4	4.6	3.2	6.4	4.7	5.5	4.4	7.9	11.4	9.8
	10.0		9.6		10.2		12.3		21.2	
⑨ 先生から信頼されている	6.3	4.3	4.7	5.6	4.4	7.3	4.1	7.9	11.5	11.2
	10.6		10.3		11.7		12.0		22.7	
⑩ 勉強がよくできる	3.9	1.1	3.2	1.2	2.8	2.3	3.3	4.7	9.6	17.2
	5.0		4.4		5.1		8.0		26.8	
⑪ 異性から人気がある	4.8	2.2	2.4	2.4	2.6	0.8	4.1	2.2	7.6	2.5
	7.0		4.8		3.4		6.3		10.1	

とても  
せい  
合計

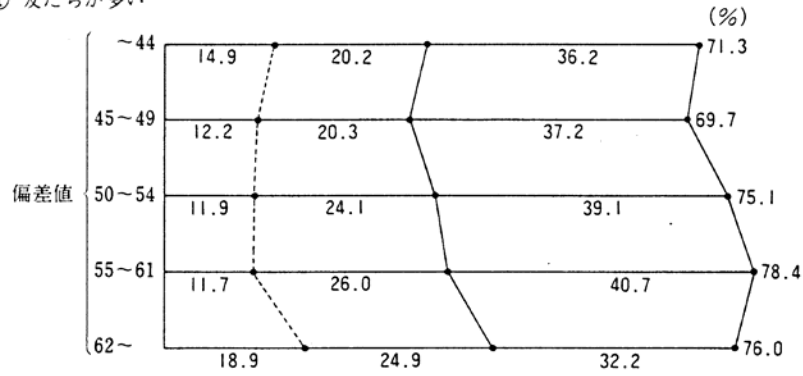
まあ  
せい

○ = 最大値  
— = 最小値

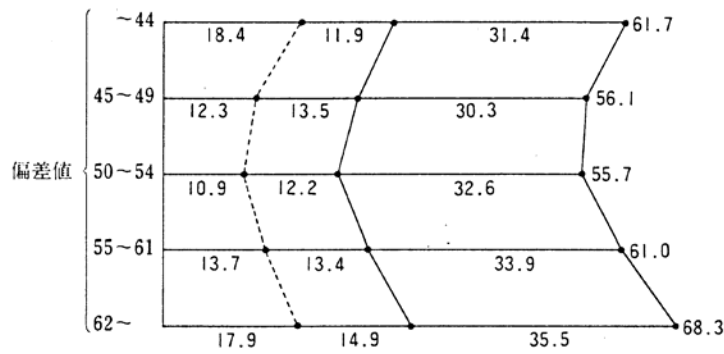
(図16) 自己評価×偏差値

→ 上位層は友だちが多いとも思う

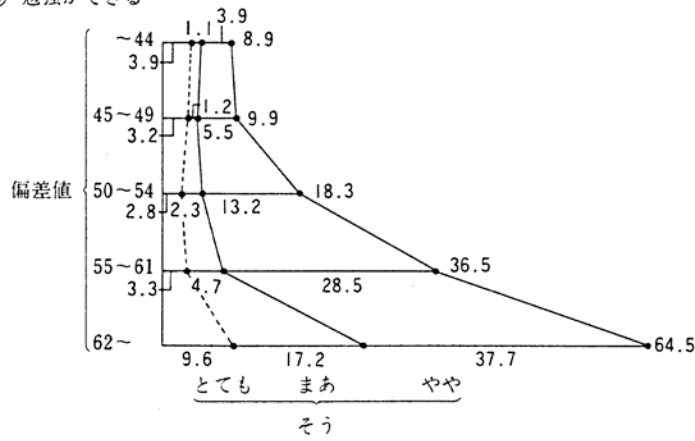
① 友だちが多い



② 心がやさしい



③ 勉強ができる



## 2. 良い高校とは何か

いずれにせよ、生徒たちはどこかの高校へ進学していく。そうした進学校を決めるにあたり、生徒たちは何を基準に考えたのか。

図17によると、生徒たちはまず公私を考え、次に通学距離、そして普通科かどうかを考えるといる。しかし、「あの学校は良い学校だとか、悪い学校だとかの世間の評判」は「少し気になる」(37%)がそれほど「気にならない」(35%)という(表18)。

もちろん進学する高校は偏差値により、好むと好まざるとにかかわらず決まってしまうので、生徒の方からすると、自分の選択などはありませんのかもしれない。

そこで質問の仕方を変えて、「良い高校とは何か」を尋ねてみた。結果は図18の通りだが、正直にいったらどういふ高校を良いといふのか、生徒たちの反応はいまひとつシャープではない。

そこで、念のために良い高校についてのイメージを偏差値ごとに集計し直すと、表19の通りとなる。最大値に○をつけておいたので明らかのように、どのような学校を良い高校といふのかは、偏差値の層により異なっている。

偏差値	}	45~49=卒業生が良い仕事についている高校
		50~54=施設や設備の良い高校
		55~61=規則を守る子の多い高校
		62~ =たくさんの人が大学へ進学する高校

なんとなく生徒たちの気持ちがわかる結果で、たしかに高校卒業後就職することを考えている生徒にとっては、就職先の良い学校が良い高校であろうし、それに対し、大学進学を予定している者には一流大学への進学率の高い学校が良い高校なのであろう(図19)。

したがって、それぞれの受験生がその生徒なりに、良い高校を胸に描いて進学先を考えたとはいっても過言であるまい。

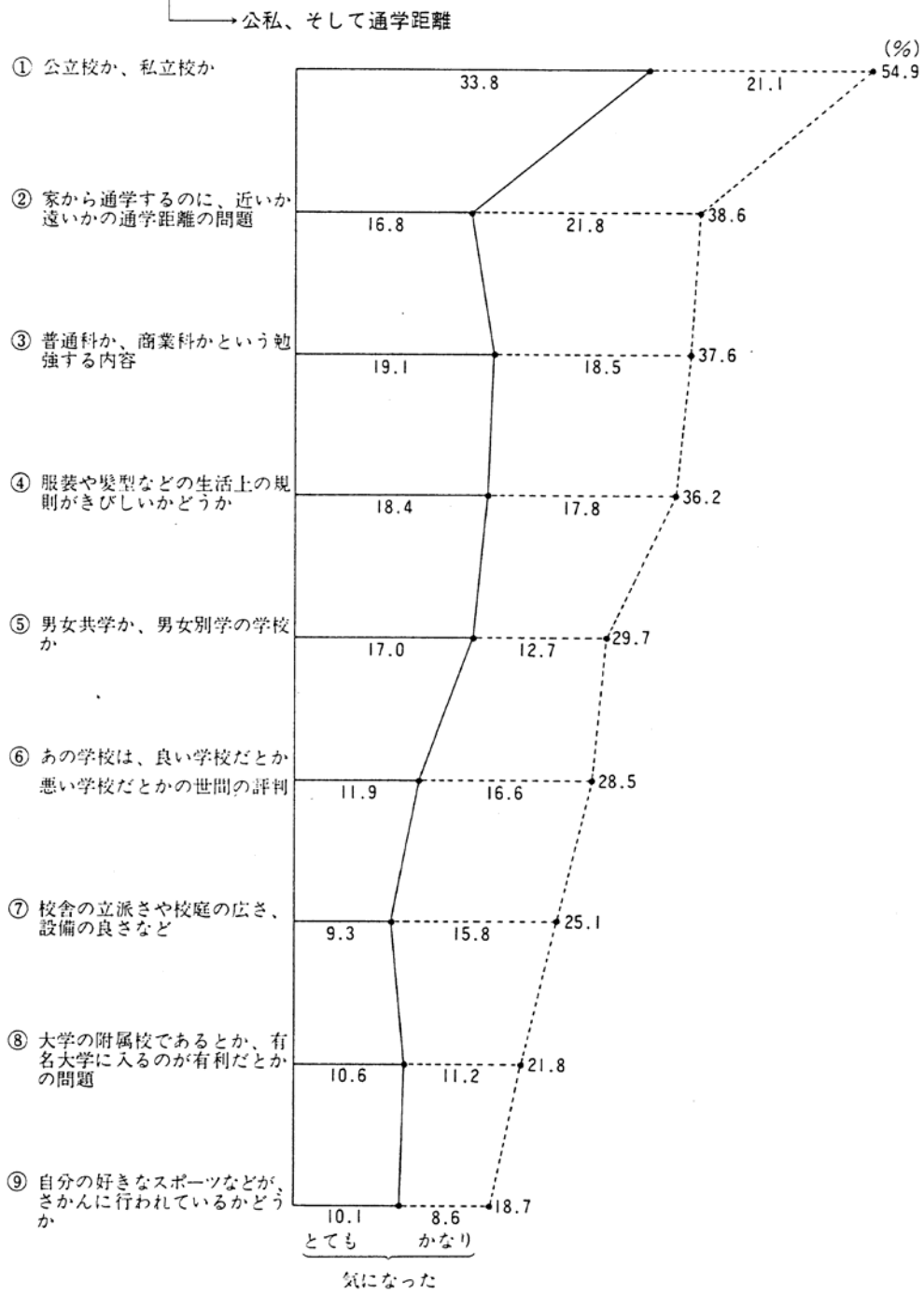
いずれにせよ、生徒たちは進学先が決まっている。そこで、今、どんな気持ちでいるのかを尋ねると図20の通りとなる。「受験を忘れてのんびりしたい」「友だちと旅行がしたい」などのように、気晴らしや休息をしたいという。生徒なりに頑張ってきたからほっとした気分になっているのであろう。

もっともそう思っているのは、受験を頑張った中位層以上の生徒たちで、中の下や下の生徒は、それほどのんびりしたいと思っていない(表20)。

中位以下の生徒たちは、それほど頑張ってきたとは思えない。それに望みの高校へ入ったわけではない、それだけに合格したという気分になれないのであろうか。

そして、高校入試については、入試がいい制度とは思えないが、かといって悪いともいえない。そういう制度がある以上、やむをえないのではないかというのが受験生の心のうちなのであろう(表21)。

(図17) 高校を決めるのに気にすること



(表18) 世間の評判を気にするか

→少しは気になる

(%)

		気になった			気にならない	
		とても	かなり	少し	あまり	ぜんぜん
性	男子	11.5	14.7	35.4	21.4	17.0
	26.2		38.4			
性	女子	12.3	18.5	38.1	20.4	10.7
	30.8		31.1			
勉	とても・まあ できる	8.7	14.2	34.5	28.4	14.2
	22.9		42.6			
	ややできる	10.8	14.7		20.3	15.8
25.5		36.1				
強	ややできない	11.7	19.4	43.6	17.6	7.7
	31.1		25.3			
	かなり できない	10.8	18.8		19.7	12.6
29.6		32.3				
強	まったく できない	20.3	18.0	27.6	16.4	17.7
	38.3		34.1			
全 体		11.9	16.6	36.8	21.0	13.7

Q. あの学校は、良い学校だとか悪い学校だとかの世間の評判がどれくらい気になりましたか。





(表19) 良い高校×偏差値

→それぞれのランクに応じた期待

(%)

	偏 差 値									
	～44		45～49		50～54		55～61		62～	
① 校舎や運動場などの施設や設備が整っている高校	16.0	33.1	17.3	42.2	22.6	41.9	22.4	41.5	21.5	42.1
	49.1		59.5		64.5		63.9		63.6	
② 規則を守り、生活のきちんとして いる生徒の多い高校	13.2	26.2	13.9	23.4	18.0	29.8	19.1	34.5	25.1	28.0
	39.4		37.3		47.8		53.6		53.1	
③ その学校の卒業生の多くが良い仕事についている高校	17.1	29.1	17.4	33.6	18.8	30.7	15.4	34.7	16.7	27.9
	46.2		51.0		49.5		50.1		44.6	
④ 大学にそのまま入れるような高校	10.4	12.9	14.5	20.6	13.4	20.2	16.4	23.5	17.6	17.4
	23.3		35.1		33.6		39.9		35.0	
⑤ 勉強に熱心な人が多く、たくさん の人が大学に進学している高校	6.2	16.6	7.8	15.9	12.9	21.9	20.8	32.0	27.0	30.0
	22.8		23.7		34.8		52.8		57.0	
⑥ スポーツや芸能などで、世間的に 名がうれている高校	8.5	15.8	6.4	15.1	8.7	16.2	6.5	13.0	4.7	10.4
	24.3		21.5		24.9		19.5		15.1	
⑦ 入学時の偏差値が高く、入るのが むずかしい高校	4.8	6.5	6.7	9.0	4.6	11.8	7.8	17.5	12.7	19.4
	11.3		15.7		16.4		25.3		32.1	
⑧ 宗教的な信念によって教育してい るとか、建学の精神がしっかりし ているような高校	4.5	6.2	2.6	7.3	3.9	8.0	5.4	8.9	6.9	9.4
	10.7		9.9		11.9		14.3		16.3	

ととも  
 そう思う

少し  
 そう思う

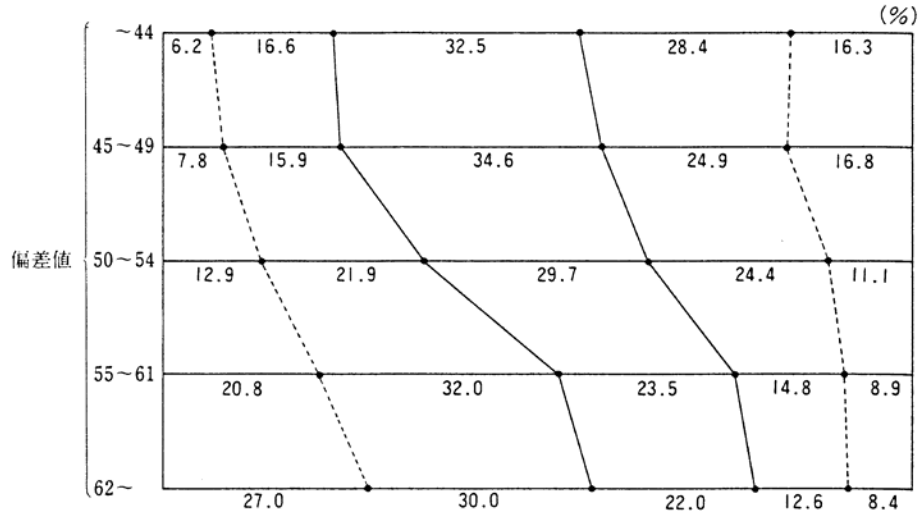
○ = 最大値  
 — = 最小値

合計

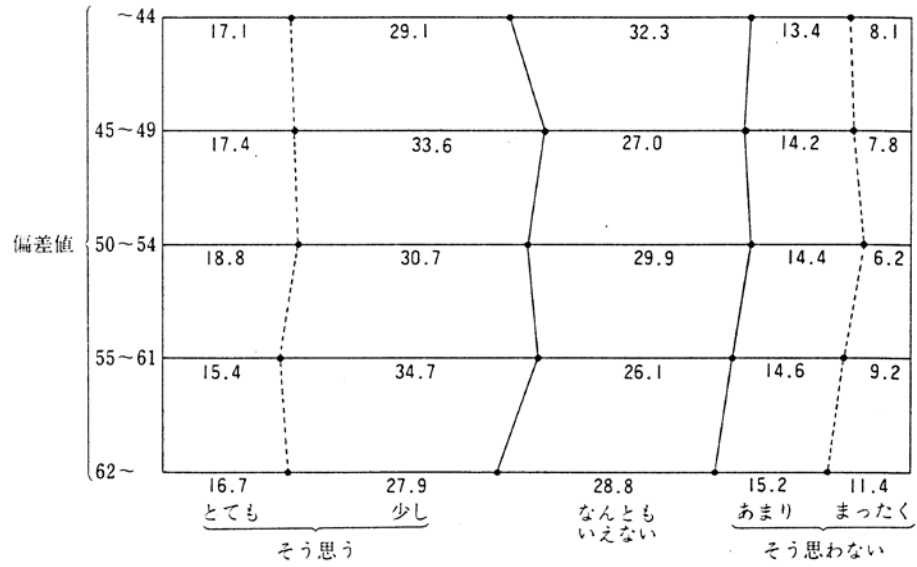
(図19) 良い高校×偏差値

→ 上位層=進学

① 勉強に熱心な人が多い

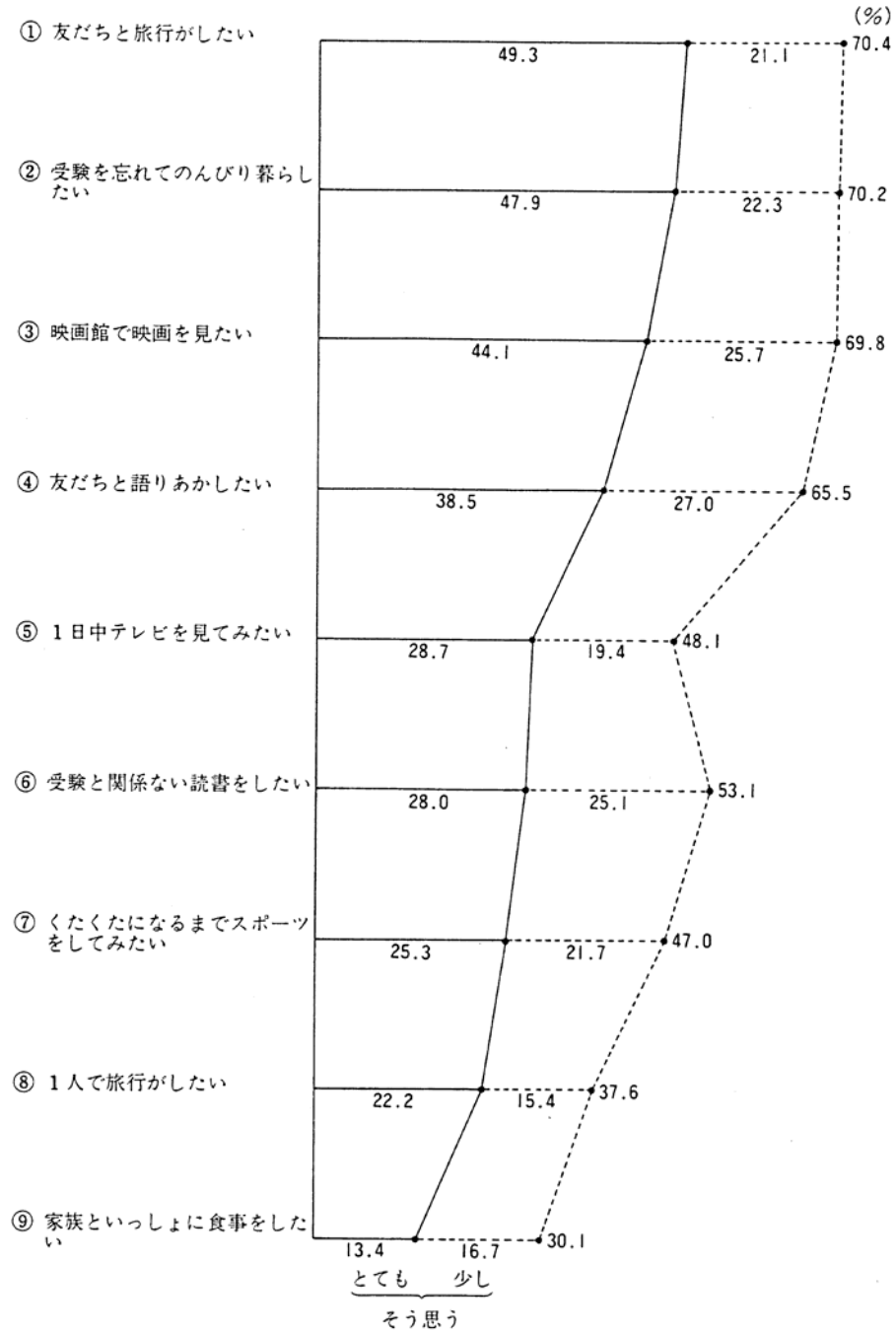


② 卒業生が良い仕事についている



(図20) 今の気持ち

のんびりと暮らしたいと思う



(表20) 今の気持ち×偏差値

└───┬───┐  
 上位層は気晴らしを

(%)

	偏差値				
	～ 44	45 ～ 49	50 ～ 54	55 ～ 61	62 ～
① 友だちと旅行がしたい	<u>42.1</u>	44.6	○52.7	51.1	50.0
② 受験を忘れてのんびり暮らしたい	<u>42.7</u>	47.5	50.0	○50.9	49.1
③ 映画館で映画を見たい	<u>37.2</u>	43.2	○46.9	44.9	45.0
④ 友だちと語りあかしたい	<u>28.9</u>	37.8	40.0	39.0	○41.1
⑤ 1日中テレビを見てみたい	<u>24.2</u>	○31.1	28.7	26.6	28.5
⑥ 受験と関係ない読書をしたい	<u>19.9</u>	23.0	28.0	28.0	○43.3
⑦ くたくたになるまでスポーツをしてみたい	<u>18.0</u>	24.9	25.1	○29.1	27.5
⑧ 1人で旅行がしたい	<u>16.7</u>	20.6	20.6	23.2	○32.2
⑨ 家族といっしょに食事をしたい	<u>11.8</u>	13.3	13.4	12.4	○14.9

とてもそう思う割合

○ = 最大値

— = 最小値

(表21) 高校入試があることは

→やむをえないと思う

(%)

	全 体	性		偏 差 値				
		男 子	女 子	～44	45～49	50～54	55～61	62～
① いいことだと思う	12.3	15.0	9.8	8.9	9.5	12.1	18.1	16.9
② まあいいことだと思う	16.3	15.8	16.9	14.7	17.0	16.2	19.1	19.1
③ どちらともいえない	46.8	41.8	51.4	53.2	46.1	47.3	42.1	40.9
④ あまりいいことだとは思わない	14.0	14.0	14.1	12.7	14.4	14.1	13.7	11.2
⑤ 悪いことだと思う	10.6	13.4	7.8	10.5	13.0	10.3	7.0	11.9

### 3. 高校入試について思っていること

生徒たちは高校入試が終わったので、入試について受験生なりの気持ちを持ってしよう。そこで、まず内申書について尋ねてみた。しかし、表22のように、内申書の比重は現行のように、試験の結果と同じ程度でよいという回答が54%と、半数を超えた。

試験だけではいやだが、そうかといって内申書だけでもいやだ、半分ずつくらいが妥当というのであろう。

また、高校入試を通して「勉強は集中してやるのが大切だ」「自分にあった勉強方法を見つけておけばよかった」「学習は積み重ねだ」などをわかるようになったという(図21)。

もっとも、高校入試についての気持ちも、これまでの分析と同じように、偏差値により異なっている(表23)。

偏差値

- ～44＝入試は生まれて初めての試験だった
- 45～49＝自分にあった勉強方法を見つけておけばよかった
- 50～54＝入試に息ぬきも必要だったと思う
- 55～61＝入試は学力の積み重ねだ
- 62～＝勉強は自分を鍛えるチャンスだ

こうした反応を見ていると、それぞれの生徒にとって、それぞれの重みを持った高校入試だったのがわかる。

そして、生徒たちがほとんど中学を卒業し、高校へ進学していく。そこで、最後に高校へ入って何をしたいのかを尋ねてみた。

図22がその結果だが、高校生活へ期待する

ものの第1位は、予想外なことに「アルバイトをしたい」であった。次に、「友だちと旅行がしたい」と「何か技能を身につけたい」が上位を占めた。

この場合も、高校生活への期待は偏差値により異なっている(図23、表24)。

偏差値	{	~44=アルバイトをしたい
		45~49=何かの技能を身につけたい
		50~54=友だちと旅行がしたい
		55~61=スポーツをしたい
		62~ =大学進学勉強をしたい

こうした形で、それぞれの生徒たちが自分なりの進路をイメージに抱いて——時には抱かざるをえなくなって——進学する高校を選び、そして実際に進学していく。これから、本当の意味で生徒たちの人生が始まるのであろう。

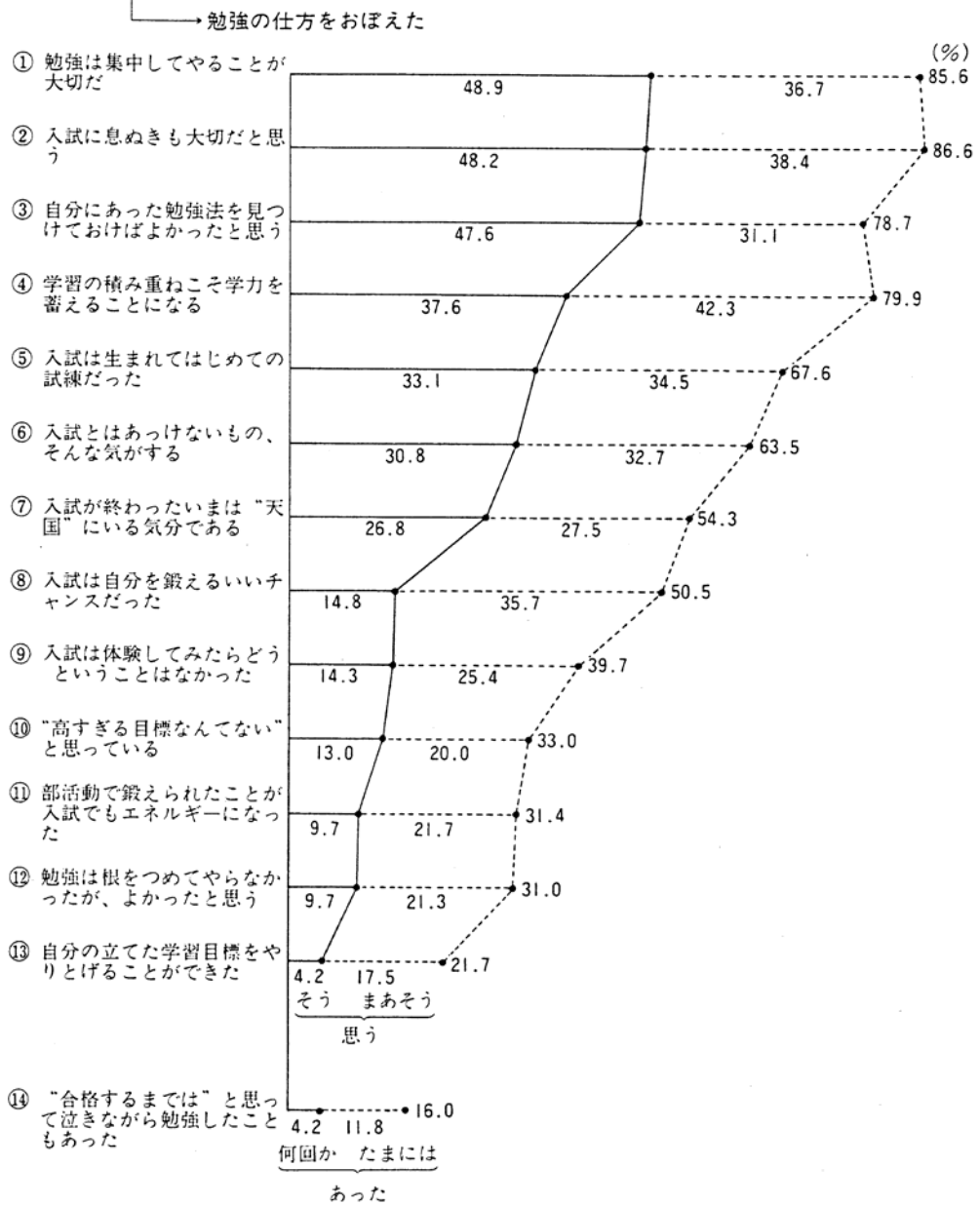
(表22) 内申書×属性

→今のままでいい

(%)

	全 体	性		進 路				
		男 子	女 子	高 校	専門学校	短 大	まあまあの 大 学	むずかしい 大 学
① 内申書だけで合否を決めるのがよい	3.1	4.1	2.0	4.0	4.7	4.2	1.0	3.3
② 試験の成績より内申書を重視してほしい	16.6	14.2	18.7	15.0	20.9	17.0	15.7	13.4
③ 現状(50%の比重)のままでよい	54.3	51.3	57.4	57.2	49.5	59.6	57.5	48.2
④ 内申書はあってもいいが、重視はしないでほしい	19.4	20.9	18.0	18.7	19.3	16.0	19.0	22.3
⑤ 入試の成績だけで、合否を決めてほしい	6.6	9.5	3.9	5.1	5.6	3.2	6.8	12.8

(図21) 高校入試について



(表23) 高校入試について×偏差値

→ 下位層にとっては苦しい体験

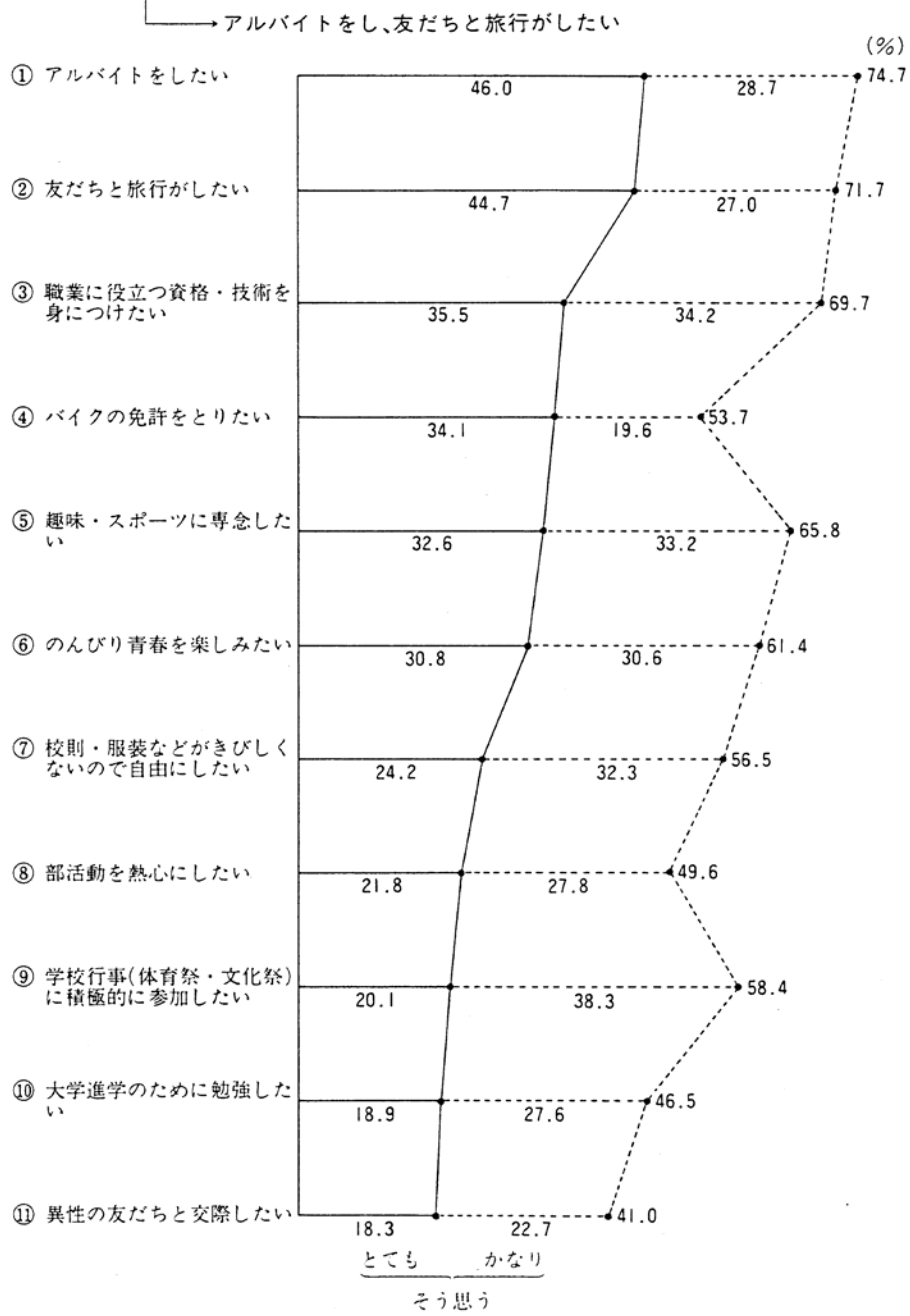
(%)

	偏 差 値									
	~44		45~49		50~54		55~61		62~	
① 勉強は集中してやるのが大切だ	41.1	35.6	42.4	42.2	47.7	40.3	53.8	37.6	62.2	26.9
	76.7		84.6		88.0		91.4		89.1	
② 入試に息ぬきも大切だと思う	41.9	38.9	48.4	40.6	53.3	38.7	49.7	37.9	51.0	34.2
	80.8		89.0		92.0		87.6		85.2	
③ 自分にあった勉強法を見つけておけばよかったと思う	46.2	34.3	47.3	34.3	50.0	30.5	50.3	29.0	42.6	26.0
	80.5		81.6		80.5		79.3		68.6	
④ 学習の積み重ねこそ学力を蓄えることになる	29.1	41.7	31.7	49.6	38.7	43.6	46.2	39.8	43.3	39.1
	70.8		81.3		82.3		86.0		82.4	
⑤ 入試は生まれてはじめての試験だった	38.3	32.5	30.0	40.6	38.1	32.2	29.8	39.2	35.1	26.5
	70.8		70.6		70.3		69.0		61.6	
⑥ 入試とはあっけないもの、そんな気がする	23.0	29.7	28.4	32.8	30.7	35.8	30.7	37.5	38.6	29.0
	52.7		61.2		66.5		68.2		67.6	
⑦ 入試が終わったいまは“天国”にいる気分である	24.0	28.5	24.3	32.7	30.7	27.4	25.5	29.8	28.0	24.3
	52.5		57.0		58.1		55.3		52.3	
⑧ 入試は自分を鍛えるいいチャンスだった	10.8	32.8	9.8	34.0	13.1	39.7	18.5	40.3	26.1	34.2
	43.6		43.8		52.8		58.8		60.3	
⑨ 入試は体験してみたらどうということはない	8.7	22.8	13.1	25.0	15.9	25.1	13.5	28.6	19.6	25.8
	31.5		38.1		41.0		42.1		45.4	
⑩ “高すぎる目標なんてない”と思っている	8.1	21.8	14.9	19.2	10.7	19.3	13.4	18.0	20.9	20.9
	29.9		34.1		30.0		31.4		41.8	
⑪ 部活動で鍛えられたことが入試でもエネルギーになった	5.6	21.9	7.2	20.3	10.9	26.9	11.0	20.7	12.6	22.2
	27.5		27.5		37.8		31.7		34.8	
⑫ 勉強は根をつめてやらなかったが、よかったと思う	8.9	21.9	6.1	21.6	9.0	24.0	10.0	20.3	16.0	18.5
	30.8		27.7		33.0		30.3		34.5	
⑬ 自分の立てた学習目標をやりとげることができた	3.4	10.9	4.3	11.3	3.4	19.8	3.0	23.0	8.6	23.7
	14.3		15.6		23.2		26.0		32.3	
⑭ “合格するまでは”と思って泣きながら勉強したこともあった	2.5	15.0	4.1	9.6	3.6	11.5	2.4	12.1	5.9	11.4
	17.5		13.7		15.1		14.5		17.3	

①~⑬ =  $\frac{\text{そう思う} + \text{まあそう思う}}{\text{合計}}$  ○ = 最大値  
 ⑭ =  $\frac{\text{何回かあった} + \text{たまにはあった}}{\text{合計}}$  — = 最小値



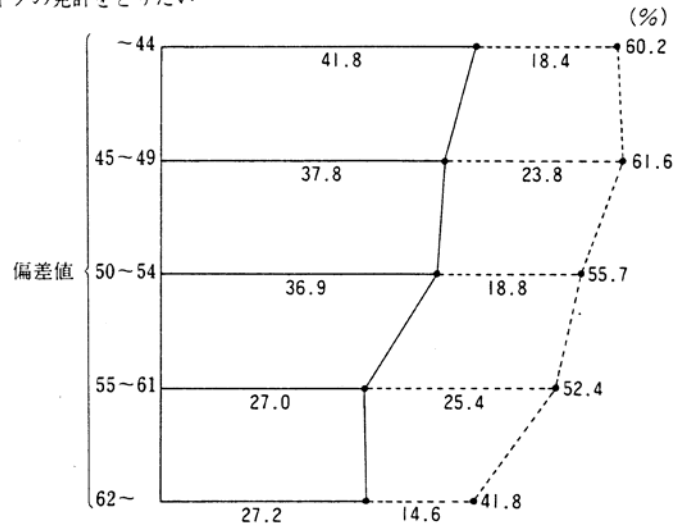
(図22) 高校生活への期待



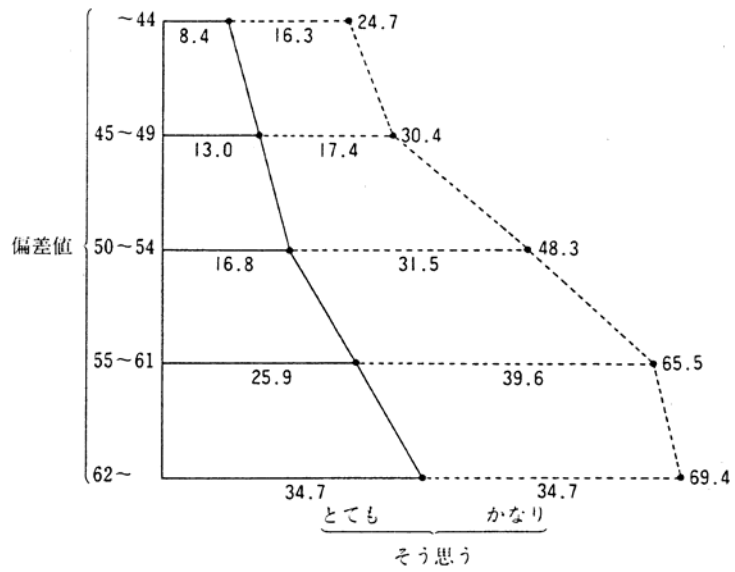
(図23) 高校生活への期待×偏差値

→ それぞれの高校生活

① バイクの免許をとりたい



② 進学勉強をしたい





① はじめに、あなたの進路についてうかがいます。

あなたの進路は、次のどれですか。

単位はすべてパーセント

1. 進学(定時制・専門学校を含む) 97.7

2. 就職 1.5

3. 未定 0.8

(2、3と答えた人をお願いします) これからの質問には、仮にあなたの進路や進学先が決まったらどんな気持ちになるかを考えて教えてください。どうしても答えにくい質問には答えなくて、その次の質問に進んでください。

② 次に、部活動についてうかがいます。

(1) あなたは部活動に入っていましたか。次のいずれかに○をつけてください。

1. はい 2. いいえ 9.2 → ③へ進んでください。

↓ 90.8

(2) (1)で「はい」に○をつけた人だけ教えてください。

① あなたは部活動には、いつからいつまで入っていましたか。

最大値  年生の  月から  年生の  月まで  
(56.9) (31.3)

② あなたの入っていた部は、次のどちらですか。○をつけてください。

1. 文化部 17.1 2. 運動部 82.9

③ あなたの入っていた部は、活動や練習はきびしかったですか。

とてもきびしかった わりときびしかった ふつう あまりきびしくなかった まったくきびしくなかった  
13.4 ————— 26.9 ————— 37.4 ————— 12.1 ————— 10.2

(3) あなたは、部活動と入試はどれくらい関係があると思いますか。  
(部活動に入っていなかった人も、予想して教えてください。)

	とても 役立つ	わりと 役立つ	どちらとも いえない	あまり 役立たない	まったく 役立たない
① 入試勉強で睡眠時間がへり、体力 の面で苦しいとき……………	5.1	19.2	49.1	15.2	11.4
② いろいろな不安に迷い、悩みなど があつて精神的な面で苦しいとき……………	11.8	25.7	38.8	12.0	11.7
③ 学力を伸ばすために集中して勉強 するときに……………	7.7	19.0	44.5	16.0	12.8
④ 内申書の内容や点数をよくするた めに……………	13.3	26.3	42.9	7.9	9.6

③ あなたは次のような不安や悩みが、どれくらいありましたか。

	とても あつた	わりと あつた	どちらとも いえない	あまり なかつた	ぜんぜん なかつた
① 学校選びの不安や悩み……………	13.6	37.0	15.0	25.2	9.2
② 親との意見のくいちがいの悩み……………	7.7	15.4	13.2	29.5	34.2
③ 合格できるのかどうかという不安……………	35.7	29.4	12.7	13.6	8.6
④ 落ちたらはずかしいという不安……………	27.0	27.3	15.8	14.9	15.0

④ あなたは次のような場合、だれに相談したり、話をしたのが最も役立ちましたか。  
右の1～6の中から1つ選び、○をつけてください。

	親	友だち	学校の先生	先輩	塾の先生	その他
① 学校を選ぶとき……………	35.6	12.9	30.7	1.9	5.1	13.8
② 勉強のしかたがわからなくなった とき……………	3.6	36.7	13.2	1.7	19.5	25.3
③ 親と希望や意見がくいちがつたと き……………	7.8	28.0	23.7	0.8	3.5	36.2
④ 合格できるのか不安になったとき……………	18.1	43.0	10.8	1.2	5.4	21.5

⑤ あなたは、入試をひかえて次のように思ったり、行動したことがどれくらいありましたか。

	いつも そうだった	ときどき そうだった	どちらとも いえない	あまり そうで なかった	ぜんぜん そうで なかった
① なんだかイライラする……………	9.3	42.0	13.3	20.5	14.9
② 勉強が手につかない……………	19.8	38.0	16.2	15.9	10.1
③ よく眠れない……………	5.0	14.2	14.8	26.2	39.8
④ 家族に口ごたえしたりしてあたる……………	10.7	29.0	19.9	18.9	21.5
⑤ 学校で友だちにあたりちらす……………	1.9	4.3	16.0	25.1	52.7
⑥ 自分の受験する学校名を友だちに 知られたくない……………	9.7	13.0	21.4	22.5	33.4
⑦ 今のまま入試をひかえて、志望校 に合格できるか不安……………	26.1	31.8	18.0	12.6	11.5
⑧ 学校を休んでも、自分の勉強を したほうがよい……………	5.6	10.8	23.2	15.9	44.5

⑥ 進路を考えるにあたって、あなたがどんなものを参考にしたかについてうかがいます。あなたは進学にあたり、志望校をきめるのに①～⑫がそれぞれどれくらい参考になりましたか。

	とても 参考にした	かなり 参考にした	あまり 参考に しなかった	まったく 参考に しなかった
① 進学に関する単行本や雑誌……………	10.9	34.1	38.9	16.1
② 担任の先生の話……………	20.3	48.2	23.8	7.7
③ 両親との会話……………	12.6	38.1	38.1	11.2
④ クラスメート(校内の友だち)との 会話……………	11.7	44.9	33.7	9.7
⑤ 部活動の先輩の話……………	3.2	11.3	27.7	57.8
⑥ 部活動の先生の話……………	2.6	9.0	29.2	59.2
⑦ 塾や予備校の先生の話……………	11.9	23.6	21.9	42.6

	とても 参考にした	かなり 参考にした	あまり 参考に しなかった	まったく 参考に しなかった
⑧ 高校発行のパンフレット類……………	20.3	34.5	30.4	14.8
⑨ 中学で作成した進路指導資料（校 内模試の成績を含む）……………	17.1	39.6	29.8	13.5
⑩ 高校の説明会（出版社などが主催 したものも含む）……………	12.0	25.1	31.2	31.7
⑪ 校外模試の結果……………	14.7	31.9	28.6	24.8
⑫ 地域での評判……………	8.6	25.3	41.2	24.9

7 進学する高校を決めるときに、次のようなことがどれくらい気になりましたか。

	とても 気に なった	かなり 気に なった	少し 気に なった	あまり 気になら なかった	ぜんぜん 気になら なかった
① あの学校は、良い学校だとか 悪い学校だとかの世間の評判……………	11.9	16.6	36.8	21.0	13.7
② 家から通学するのに、近いか遠い かの通学距離の問題……………	16.8	21.8	30.4	18.5	12.5
③ 自分の好きなスポーツなどが、さ かに行われているかどうか……………	10.1	8.6	19.5	30.2	31.6
④ 校舎の立派さや校庭の広さ、設備 の良さなど……………	9.3	15.8	29.3	26.4	19.2
⑤ 大学の附属校であるとか、有名大 学に入るのが有利だとかの問題……………	10.6	11.2	17.8	23.7	36.7
⑥ 普通科か、商業科かという勉強す る内容……………	19.1	18.5	25.9	17.6	18.9
⑦ 男女共学か、男女別学の学校か……………	17.0	12.7	24.7	23.8	21.8
⑧ 公立校か、私立校か……………	33.8	21.1	21.1	12.2	11.8
⑨ 服装や髪型などの生活上の規則が きびしいかどうか……………	18.4	17.8	27.6	20.4	15.8

⑧ あなたが利用した勉強方法について、うかがいます。

(1) あなたは、この1年間に次のようなものを利用しましたか。

	ほぼ毎日	週に3~4日	週に1~2日	冬期講習	夏期講習	利用しなかった
① 塾	5.9	24.8	22.4	3.1	4.3	39.5
	ほぼ毎日	週に3~4日	週に1~2日	冬休み	夏休み	参加しなかった
② 補習(校内の)	6.9	2.5	6.5	2.0	16.7	65.4
	ほぼ毎日	週に3~4日	週に1~2日	利用しなかった		
③ 通信添削	5.0	3.3	9.1	82.6		
	0回	1~2回	3~4回	5~6回	7回以上	
④ 模擬試験	20.0	28.5	20.1	11.5	19.9	

(2) それらは、あなたの受験勉強に役立ちましたか。

	大変役立った	少し役立った	どちらともいえない	あまり役立たなかった	まったく役立たなかった
① 予備校	2.6	3.4	26.2	2.1	65.7
② 塾	30.2	24.9	13.7	4.8	26.4
③ 補習(校内の)	4.9	16.1	28.9	8.1	42.0
④ 通信添削	5.6	8.9	24.8	4.0	56.7
⑤ 模擬試験	18.6	31.8	21.4	8.1	20.1

⑨ あなたは実際にいつ頃から受験を意識して、勉強に力を入れ始めましたか。

	中学に入っ てすぐ	2年生の 頃から	3年生に なっ て すぐ	3年の 夏休みに 入っ て	3年の 2学期に なっ て	3年の 2学期後半 になっ て	3年の 3学期に なっ て	入試直前 になっ て	とくに 意識し な か た か つ
	1.0	2.5	6.0	18.0	14.2	21.3	15.8	9.1	12.1

⑩ 入試が終わったいま、ふりかえてみて、いつ頃から受験勉強を始めたらよかったと思いますか。

	中学に入っ てすぐ	2年生の 頃から	3年生に なっ て すぐ	3年の 夏休みに 入っ て	3年の 2学期に なっ て	3年の 2学期後半 になっ て	3年の 3学期に なっ て	入試直前 でよい	受験を意識 しての勉強は 不必要
	18.4	17.9	22.1	23.0	4.5	3.6	2.9	2.2	5.4



11 入試の勉強についてうかがいます。

① 高校合格のための勉強は、学校の授業をきちんと受けていれば、家庭であまり勉強をしなくても大丈夫だと思いますか……………

ぜったい 大丈夫 だと思う	だいたい 大丈夫 だと思う	わから ない	少し 不足すると 思う	ぜったい 不足すると 思う
5.4	23.5	19.4	31.7	20.0

② それでは、学校の授業をまじめに受け、参考書などできちんと勉強すれば、塾などへ通わなくても高校へ入れると思いますか……………

ぜったい 入れる	だいたい 入れる	わから ない	たぶん 入れない	ぜったい 入れない
28.0	43.0	20.3	5.5	3.2

③ 塾へ行ったほうが進学に有利だと思いますか……………

ぜったい 有利で ある	かなり 有利で ある	やや 有利で ある	たいして 有利で ない	まったく 有利で ない	わから ない
10.7	14.3	34.0	21.0	6.4	13.6

④ あなたは、塾か予備校へ通っていましたか……………

1. 通っていなかった	41.7	週 <input type="text"/> 日	1日 = 6.0
2. 通っていた	58.3		2日 = 32.9
			3日 = 33.8
			4日 = 17.6
			5日 = 4.2
			6日 = 5.5

12 3年生になったばかりの頃を思い出してください。

① あなたは3年生になったばかりの頃、公立校へ進みたかったですか。私立校へ進みたかったですか。

1. ぜったいに公立校	44.5	4. できれば私立校	5.6
2. できれば公立校	28.7	5. ぜったいに私立校	5.9
3. どちらでもよい	15.3		

② あなたは3年生になったばかりの頃、共学校へ進みたかったですか。別学校へ進みたかったですか。

1. ぜったいに共学校	24.0	4. できれば別学校	5.5
2. できれば共学校	27.9	5. ぜったいに別学校	4.0
3. どちらでもよい	38.6		

③ 大学の附属高校への進学を希望していましたか。

1. ぜったい希望していた	6.6	4. どちらかといえば希望しなかった	19.5
2. できれば希望していた	18.6	5. ぜったい希望しなかった	10.7
3. どちらでもよい	44.6		

13 2学期の頃、あなたは、家へ帰ってから平均してどれくらいの時間勉強していましたか。平日、土曜、日曜に分けて教えてください。

- ① 平日……………  時間  分くらい 平均 2時間12分
- ② 土曜……………  時間  分くらい 2時間58分
- ③ 日曜……………  時間  分くらい 3時間10分

14 あなたは、2学期に平均して何時頃寝ていましたか。

- ① 寝る時間……………  午前  時頃 平均 午後11時15分  
午後
- ② 睡眠時間…………… 平均して  時間  分くらい 7時間30分

15 あなたの9月～12月の偏差値の平均は、どれくらいでしたか。

- くらい
- 0～44=19.3
  - 45～49=18.5
  - 50～54=20.8
  - 55～61=19.8
  - 62～ =21.6

16 あなたは、高校を全部で何校、受験しましたか。

- 校 平均 2.0校

17 内申書についてうかがいます。

① 内申書(高校へ提出する調査書)について、どう思いますか。

- 1. 内申書だけで合否を決めるのがよい 3.1
- 2. 試験の成績より内申書を重視してほしい 16.6
- 3. 現状(50%の比重)のままでよい 54.3
- 4. 内申書はあってもいいが、重視はしないでほしい 19.4
- 5. 入試の成績だけで、合否を決めてほしい 6.6

② 日頃の学校生活で、「内申書にひびく」——良い面でも悪い面でも——ことを意識することがありましたか。

いつも あった	ときどき あった	たまに あった	ぜんぜん なかった
6.3	31.9	37.5	24.3

③ 「自分に不利になるような内申書を先生につけられたらどうしよう」と不安に思うことがありましたか。

いつも あった	ときどき あった	たまに あった	ぜんぜん なかった
5.9	19.1	32.6	42.4

④ 「生徒会活動や部活動が内申書をよくする」と考えたことがありましたか。

いつも あった	ときどき あった	たまに あった	ぜんぜん なかった
7.9	27.2	42.0	22.9

18 高校へ進学するとき、入学試験があるのはいいことですか、悪いことですか？

1. いいことだと思う	12.3
2. まあいいことだと思う	16.3
3. どちらともいえない	46.8
4. あまりいいことだとは思わない	14.0
5. 悪いことだと思う	10.6

19 高校入試では、試験教科は何教科がよいと思いますか。

1. 全教科	4.1	3. 3教科(国、数、英)	28.2
2. 5教科(国、社、数、理、英)	31.9	4. 得意教科を数科目選択	35.8

20 昨年の高校入試直後、生徒のみなさんに感想を求めました。感想には、次の①～⑭のようなものがありました。あなたが読んでみて、自分の感想にいちばん近いと思うものに○をつけてください。

① 自分の立てた学習目標をやりとげることができたと思う……	4.2	② そう思う	17.5	③ まあそう思う	44.0	④ あまりそう思わない	34.3	⑤ そう思わない
-------------------------------	-----	--------	------	----------	------	-------------	------	----------

● 資料 調査票見本および集計表

	そう 思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない
② 高校入試は、自分を鍛えるいいチャンスだったと思う……………	14.8	35.7	34.1	15.4
③ 高校入試は、生まれて初めての大きな試練だったと思う……………	33.1	34.5	21.4	11.0
④ もっと早く自分にあった勉強法を見つけて、地道にやっておけばよかったと思う……………	47.6	31.1	13.7	7.6
⑤ 3年生になったからといって、勉強は根をつめてやらなかったが、それでよかったと思う……………	9.7	21.3	47.1	21.9
⑥ 勉強は、短い時間、心を集中してやるのが大切だと思う……………	48.9	36.7	10.0	4.4
⑦ 高校入試が終わったいまは、“天国”にいる気分である……………	26.8	27.5	30.0	15.7
⑧ 高校入試は、体験してみたらどうということとはなかった。ただの期末テストという感じだった……………	14.3	25.4	36.3	24.0
⑨ すべての入試が終わったいま、入試とはあっけないもの、そんな気がする……………	30.8	32.7	24.3	12.2
⑩ 部活動で鍛えられたことが、入試でも最後までがんばり通せるエネルギーになったと思う……………	9.7	21.7	34.6	34.0
⑪ “高すぎる目標なんてない”と考えて3年生を過ごしたが、いまも、“高すぎる目標なんてない”と思っている……………	13.0	20.0	45.5	21.5
⑫ 学習の積み重ねこそ学力を蓄えることになる。そう気づいた……………	37.6	42.3	13.3	6.8
⑬ 入試、入試と神経質になることもなかったのだ。ときには息ぬきも大切だったのだと思う……………	48.2	38.4	8.0	5.4

⑭ “合格するまでは……”と、<sup>何回か</sup>あつた <sup>たまには</sup>あつた <sup>ほとんど</sup>なかつた <sup>まったく</sup>なかつた  
泣きながら勉強したこともあつた…4.2 ———— 11.8 ———— 23.7 ———— 60.3

21 中学校生活3年間をふりかえてみると、あなたの勉強のしかたは、つぎのどのタイプだと思えますか。あなたの勉強型にいちばん近いものを1つ選んで、○をつけてください。

1. コツコツ積み重ねていくタイプ 6.5
2. 始めれば休むことなく続けるタイプ 7.2
3. 勉強中にもときどき他のことが頭に浮かんでくるタイプ 36.3
4. 気がむくとやり、むかないとやらないタイプ 50.0

22 受験が一段落したいま、あなたは次のことを思いきりやりたいと思っていますか。

- |                             | とても<br>そう思う | 少し<br>そう思う | どちらとも<br>いえない | あまり<br>そう思わない | まったく<br>そう思わない |
|-----------------------------|-------------|------------|---------------|---------------|----------------|
| ① 受験と関係ない読書をしたい……           | 28.0        | 25.1       | 17.1          | 13.3          | 16.5           |
| ② 友だちと語りあかしたい……             | 38.5        | 27.0       | 18.8          | 8.6           | 7.1            |
| ③ 友だちと旅行がしたい……              | 49.3        | 21.1       | 14.0          | 8.5           | 7.1            |
| ④ 1人で旅行がしたい……               | 22.2        | 15.4       | 23.3          | 17.7          | 21.4           |
| ⑤ 映画館で映画を見たい……              | 44.1        | 25.7       | 14.6          | 8.0           | 7.6            |
| ⑥ 1日中テレビを見てみたい……            | 28.7        | 19.4       | 20.3          | 19.5          | 12.1           |
| ⑦ 家族といっしょに食事をしたい……          | 13.4        | 16.7       | 34.1          | 17.7          | 18.1           |
| ⑧ 受験を忘れてのんびり暮らしたい……         | 47.9        | 22.3       | 16.4          | 7.4           | 6.0            |
| ⑨ くたくたになるまでスポーツをし<br>てみたい…… | 25.3        | 21.7       | 20.4          | 13.9          | 18.7           |

23 あなたにとって良い高校とは、どんな学校ですか。

	とても そう思う	少し そう思う	なんとも いえない	あまり そう思わない	まったく そう思わない
① 校舎や運動場などの施設や設備 が整っている高校……………	20.5	39.5	23.0	10.2	6.8
② 勉強に熱心な人が多く、たくさん の人が大学に進学している高校…	14.2	22.9	29.6	20.8	12.5
③ 規則を守り、生活のきちんとして いる生徒の多い高校……………	17.7	28.0	29.5	15.4	9.4
④ その学校の卒業生の多くが良い仕 事についている高校……………	17.1	30.8	29.2	14.1	8.8
⑤ スポーツや芸能などで、世間的に 名がうれている高校……………	7.0	14.6	34.7	23.5	20.2
⑥ 入学時の偏差値が高く、入るのが むずかしい高校……………	6.9	12.2	32.0	25.4	23.5
⑦ 宗教的な信念によって教育してい るとか、建学の精神がしっかりし ているような高校……………	4.5	8.0	31.1	24.9	31.5
⑧ 大学にそのまま入れるような高校	14.3	18.8	28.1	19.6	19.2

24 あなたは、高校生活で次のようなことをしてみたいと、期待していますか。

	とても そう思う	かなり そう思う	あまり そう思わない	ぜんぜん そう思わない
① 大学進学のために勉強したい…………	18.9	27.6	38.0	15.5
② 学校行事(体育祭・文化祭)に積極 的に参加したい……………	20.1	38.3	33.1	8.5
③ 異性の友だちと交際したい…………	18.3	22.7	46.8	12.2
④ 校則・服装などがきびしくない ので自由にしたい……………	24.2	32.3	35.1	8.4
⑤ 部活動を熱心にしたい……………	21.8	27.8	34.8	15.6

	とても そう思う	かなり そう思う	あまり そう思わない	ぜんぜん そう思わない
⑥ アルバイトをしたい……………	46.0	28.7	17.7	7.6
⑦ バイクの免許をとりたい……………	34.1	19.6	27.8	18.5
⑧ 友だちと旅行がしたい……………	44.7	27.0	20.1	8.2
⑨ 職業に役立つ資格・技術を身につ きたい……………	35.5	34.2	24.3	6.0
⑩ 趣味・スポーツに専念したい……………	32.6	33.2	26.8	7.4
⑪ のんびり青春を楽しみたい……………	30.8	30.6	30.3	8.3

25 あなたが実際に進学する高校について、うかがいます。

① あなたが進学する高校は、単願でしたか、それとも併願でしたか。

1. 単願だった 43.8                      2. 併願だった 56.2

② 公立高校ですか、私立高校ですか。

1. 公立高校 66.8                      2. 私立高校 33.2

③ 男女共学ですか、別学ですか。

1. 共学 68.1                      2. 別学 31.9

④ 大学や短期大学の附属校ですか。

1. 附属 16.5                      2. 附属ではない 83.5

⑤ 進学する高校は、受験した高校のなかでは第1志望でしたか。

1. 1校しか受験しなかったため、当然第1志望だった 38.9

2. 複数の高校を受験したなかの第1志望だった 42.9

3. 第1志望ではなかった 18.2

⑥ あなたの進学する高校は、はじめから希望した学校ですか。

- |                      |      |
|----------------------|------|
| 1. はじめからぜひ入学したかった学校  | 27.7 |
| 2. はじめからやや入学したかった学校  | 23.3 |
| 3. どちらともいえない         | 23.6 |
| 4. はじめはやや入学しなかった学校   | 12.8 |
| 5. はじめはまったく入学しなかった学校 | 12.6 |

⑫ あなたは将来どんな進路へ進むつもりですか。○を1つつけてください。

- |                     |      |
|---------------------|------|
| 1. 中学または高校までで就職したい  | 18.3 |
| 2. 専門学校へ行くつもり       | 21.9 |
| 3. 短期大学へ行くつもり       | 15.3 |
| 4. まあまあの4年制大学へ行くつもり | 29.8 |
| 5. むずかしい4年制大学へ行くつもり | 14.7 |

⑬ あなたは中学生としては、自分をどんなタイプだと思っていますか。

- |                     | とても<br>そう | まあ<br>そう | やや<br>そう | やや<br>ちがう | かなり<br>ちがう | まったく<br>ちがう |
|---------------------|-----------|----------|----------|-----------|------------|-------------|
| ① 勉強がよくできる……………     | 4.2       | 5.1      | 16.4     | 29.3      | 21.2       | 23.8        |
| ② 異性から人気がある……………    | 4.1       | 2.0      | 8.9      | 26.0      | 21.4       | 37.6        |
| ③ 友だちが多い……………       | 14.4      | 23.3     | 36.4     | 15.4      | 4.5        | 6.0         |
| ④ 心がやさしい……………       | 14.7      | 12.7     | 32.2     | 22.9      | 7.1        | 10.4        |
| ⑤ 運動神経がいい……………      | 8.9       | 11.2     | 20.2     | 23.9      | 14.1       | 21.7        |
| ⑥ 友だちをひっぱる力がある…………… | 6.0       | 6.7      | 19.3     | 30.7      | 17.1       | 20.2        |
| ⑦ 先生から信頼されている……………  | 6.2       | 6.8      | 22.3     | 28.6      | 14.2       | 21.9        |
| ⑧ 体力がある……………        | 12.8      | 13.1     | 23.1     | 21.1      | 13.1       | 16.8        |
| ⑨ 遅刻をしない……………       | 31.1      | 18.2     | 13.4     | 14.2      | 8.3        | 14.8        |



	とても そう	まあ そう	やや そう	やや ちがう	かなり ちがう	まったく ちがう
⑩ 忘れ物をしない……………	11.9	—21.7	—22.4	—22.2	—10.2	—11.6
⑪ 掃除や係の仕事をきちんとする……	14.6	—17.0	—25.4	—20.8	—9.7	—12.5

以上で終わりです。長い間ありがとうございました。